

電気通信工事業における死亡災害事例（1999-2021年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	起因物 (小)	事 故 の 型	労働 者規 模
2020	1	12 ～ 14	建設現場での作業を終え、被災者が普通貨物自動車を運転し、次の現場へ向かう途中の片側2車線の直線道路を走行中、対向車線に飛び出し、歩道の縁石を乗り越えて、歩道橋の橋脚に衝突したものの。	231	17	1～9
2020	2	6 ～ 8	地下通信ケーブルの夜間工事を終え、作業車で事務所へ帰社するため走行中、トンネルの手前で運転者がハンドル操作を誤り、トンネルの入口外壁に車の左側が衝突したことで車両前方左側が大破、助手席にいた被災者が死亡した。	221	17	50～ 99
2020	3	12 ～ 14	5本の鉄骨支柱と鉄製屋根（高さ2.5m）からなる鉄骨製倉庫の解体作業中に、溶断した鉄製屋根の一部（根元を溶断した支柱が2本付いた状態）を車載型移動式クレーンで吊り上げたところ、残る屋根を支える3本の支柱が折れて屋根が倒壊し、当該屋根上で溶断作業のために立っていた被災者が地上に落ち、死亡したものの。	418	1	10～ 29
2020	6	14 ～ 16	今後工事の事前調査のため、社有車を直線道路の左端に駐車させ、車を降りていたところ、後方から走行してきたトラックに激突された。駐車時には、ハザードランプを点灯させていた。	221	17	30～ 49
2020	6	14 ～ 16	高さ10mの電柱の抜柱作業において、台棒を使用して人力で上部から電柱を解体することとなっていたにもかかわらず、電柱をドラグショベルで吊り上げて引き抜き、誘導者の導くロープ方向に倒したところ、電柱が誘導者を直撃したものの。	142	5	1～9
			新築建屋外部階段の踊り場において、被災者は一人で、壁に立てかけた梯			

2020	7	12 ～ 14	子に上り、発電機用の配線によじれ解消作業を行っていた。災害発生時 間、近くで作業していた作業員が「ドン」と大きな音がしたためにそこへ 行くと、踊り場床面で、左側頭部から血を流して倒れている被災者を発見 した。被災者は病院に救急搬送されたが、後日死亡した。	371	1	10～ 29
2020	7	14 ～ 16	鉄塔上でボルト締作業に従事していた被災者が、特別高圧架空電線の放電 エリアに入ってしまった感電した。	351	13	30～ 49
2020	8	10 ～ 12	鉄塔の建替工事現場において、鉄塔の部材をジブクレーンで移動させよう としたところ、地上から約7.7m地点で、吊り荷（長さ565cmの鉄 骨）がスリングベルトから外れて落下した。斜面に落下した吊り荷は斜面 下部方向に倒れ、玉掛けの準備作業を行っていた被災者に激突したもので ある。	372	4	10～ 29
2020	9	8 ～ 10	被災者は電話工事の交通警備業務で同僚2名と現場近くに到着待機。工事 業者がトラック（小型移動式クレーン装備）で到着し工事場所の180m 先でトラック車体左半分を歩道上に乗り上げ後退した。後退中に通過車両 があり一旦停止した。被災者は待機場所から一人でトラックまで来てト ラック右後部付近に立ち入り通過車両を誘導（推定）。車両通過直後にト ラックが再び後退を開始し死角で見えなかった被災者を右後輪で轢いたも の。	221	7	10～ 29
2020	10	8 ～ 10	重機搬入路の敷鉄板の段差の調整作業中、バックホウのバケットの爪に敷 鉄板を掛けて動かそうとしたが動かなかったため、被災者がバールを併用 して動かそうとしていたところ、敷鉄板からバックホウのバケットの爪が 外れ、バケットがバールに接触し、その反動で被災者の胸部に当たった。	142	4	10～ 29
2020	10	10 ～ 12	土砂の崩壊を防止するために1メートル四方のコンクリートブロックを7 段積み上げていたが、土砂が崩壊したため、積み上げられていたコンク リートブロックが崩れ、付近にあったプレハブ小屋にコンクリートブロッ クが直撃し、プレハブ小屋の中で警備機器取付の作業を行っていた被災者 が死亡したもの。	711	5	10～ 29

2020	11	10 ～ 12	電話線に引っ掛かりそうになっている立木（樹高約10m、胸高直径32cm）を除去する作業（傾斜約40度）において、当該立木を伐倒し電話線に一旦掛けた後、電話線から木を外すため、チェーンソーを用いて4回目の元玉切りをした際、木の切断面が下方に落ちた反動で木の先端が、被災者に飛来・落下し、被災者は内臓破裂による出血死した。	712	5	1～9
2020	11	8 ～ 10	電気設備改修工事現場において、既設の碍子洗浄装置（碍子の塩害防止のための散水装置）の撤去のため、当該装置の架台（各面がはしご状の直方体の鉄柱）に昇り、高さ1.4mの箇所まで、取り付けられていたU字ボルトを取り外したところ、架台ごと後方に倒れ、停車していた高所作業車に激突し死亡したもの。	391	5	1～9
2020	12	6 ～ 8	労働者3名が社有車で現場に向かう途中、前方車が蛇行運転したので、衝突を回避しようとして当該車両がスリップし、左側土手に衝突した後、後方車両と衝突した。これらの衝突により、ハッチバックドアが開き、後部座席に乗車していた被災者が車外に投げ出され、全身を強く打ち死亡した。	231	17	10～ 29
2020	12	14 ～ 16	被災者は事業場に帰るため車で走行中、被災者の車両が対向車線にはみ出し、対向車と正面から激突したもの。	231	17	10～ 29
2019	2	8 ～ 10	高速道路に設置してあるプルボックス内の光ファイバーケーブルの接続切替作業を行っていた。作業者と作業指揮者である被災者の2名で高所作業車の作業床に搭乗し、作業者がプルボックス内のケーブル切替作業を行っている時に、高所作業車の作業床が上昇し、被災者が高さ4.875メートルの橋桁下部とバケットの間に挟まれ負傷した。	146	7	100 ～ 299
2019	2	10 ～ 12	発注見込みの伐採作業の打ち合わせ、現地確認のため、被災者は自らが運転していた高所作業車を停車し、車両から降りたところ、車両が後退しこれを止めようとしたが、車両と電柱の間に挟まれ死亡した。付近の道路の勾配は0度から5度だった。サイドブレーキは引いておらず、輪止めは使用していなかった。	146	17	10～ 29

2019	2	14 ～ 16	運搬してきた電柱14本を営業所敷地内の資材置場に降ろすために、台付けワイヤーを緩めたところ、2本の電柱が落下して被災者に激突した。	611	4	50～ 99
2019	3	10 ～ 12	被災者は、午後からの会議に出席するため、午前、自動車を運転して会社を出たが、夕方頃、市道の路肩に停車している車内で、心肺停止で死亡しているところを発見された。	921	90	10～ 29
2019	5	14 ～ 16	客先の施設にある配電盤の点検作業を請け負う労働者が、設備3階にある配電盤の設置場所に向かっていたところ、床材（鉄板）を踏み抜き、約8m墜落したもの。当該箇所は錆びて腐食していたため、ロープで立ち入り禁止措置が講じられていた。	417	1	1～9
2019	5	14 ～ 16	片側1車線（制限速度60km）の道路上において、交通誘導員1人を配置し、被災者は高所作業車を使い、道路脇の歩道から作業装置を車道に向け、路側帯上の高さ5.7mにある敷設した光通信線を高さ約4.3mのバケット上で車道上の左端にまたがり架設作業を行っていたところ、車道内を直進してきた空荷の海上コンテナを積載した大型トレーラー（車高約4m）のコンテナ隅と先端ブームが接触し投げ出され、脳挫傷で死亡した。	221	17	10～ 29
2019	6	10 ～ 12	営業所において朝の打ち合わせを行った後、被災者は自ら社用車を運転し建設現場に到着したが、体調不良のため営業所に帰社した。営業所内の仮眠室で胸部の痛みを訴えたため、病院に搬送したが当日死亡した。死因は心筋梗塞。	921	90	10～ 29
2019	7	16 ～ 18	電力供給線の改修工事を作業員5名で行っていた。従事していた1名が動力本線（架空電線の最上部に架線された3本の動力線。「道路側」「電灯本線」「家側」が平行して架線されているもの。）の撤去、接続作業を行った。初めに「道路側」を行い、次に「家側」の作業を行おうとして「道路側」と「電灯本線」との動力線の上に身体を入れ、「家側」の作業を行っていたところ感電したもの。（推定）	351	13	30～ 49
			車道のマンホールを開けて行う工事のため、片側交互通行で工事を行って			

2019	9	8 ～ 10	いたところ、走行中のタンクローリーが停車していたトラックに衝突し、トラックが押し出され、マンホールの中のケーブルの張替作業を行っていた労働者に衝突した。被災者は全身を打ち死亡した。	221	17	1～9
2019	10	14 ～ 16	自社工場内の倉庫において、事務所にいた作業員がタイヤ交換作業のため倉庫に入ったところ、頭から出血した被災者が1階コンクリート床にうつ伏せで倒れていた。その後すぐ救急搬送したが、搬送先の病院で死亡したもの。なお、被災者が倒れていた上方の2階床は開口となっており、被災者は保護帽及び墜落制止用器具が未着用であった。	414	1	10～ 29
2019	11	10 ～ 12	電線張替え工事において、高さ21mの鉄塔上で作業員3名により電線に取り付けた部品（つり金コード）を回収するため、曳船用ロープにてウィンチにより巻き取り作業中、曳船用ロープに取り付けていた金車の固定用ロープが切断し、金車付近でかつ曳船用ロープの内角側で作業していた被災者の腹部に曳船用ロープが激突し、3日後に肝臓損傷により死亡した。	219	6	1～9
2019	11	12 ～ 14	海水揚水発電所の電気機器撤去工事現場にて、高さ約150メートルの立坑から、電気ケーブルを35メートル毎に切断し、屋外へ搬出・撤去する作業中、電気ケーブルが落下し、作業員2人が巻き込まれ、現場で死亡が確認されたもの。	379	4	10～ 29
2019	11	12 ～ 14	海水揚水発電所の電気機器撤去工事現場にて、高さ約150メートルの立坑から、電気ケーブルを35メートル毎に切断し、屋外へ搬出・撤去する作業中、電気ケーブルが落下し、作業員2人が巻き込まれ、現場で死亡が確認されたもの。	379	4	10～ 29
2019	12	0 ～ 2	駅構内にて横取装置の電源を新設するにあたり、線路を横断するビームに防護管を設置するため、高さ約6mのビーム上で作業していたところ、墜落したもの。	415	1	1～9
2018	1	12 ～	市道に設置されている街灯の灯具をLED化するための工事を実施していた。電柱の高さ4.67mの位置で作業を行っているとき、U字型安全帯を使用していたものの、安全帯のロープを電柱に巻いて、自身の着用した	418	1	10～

		13	安全帯のD環にフックを掛けるところを、ハンマーホルダーの環にフックを取り付けて作業したため、体重をかけたところでハンマーホルダーの環が破損し、地面に墜落。全身を強打し後日死亡した。			29
2018	2	8 ～ 9	被災者は移動式クレーン（12t）を運転して市内の現場に向かう途中、林道脇に約5m滑落し、外傷性圧迫死により死亡したもの。	212	17	1～9
2018	2	10 ～ 11	送電鉄塔の高さ47.5mの腕金にある水平レール端部を閉塞する作業中、被災者が作業予定箇所まで移動後に地面に墜落した。被災者は水平レールに接続した移動用ロープ（単軸ローラー）を安全帯のD環に取り付け、作業予定箇所まで移動したが、墜落時移動ロープのフックはD環に取り付けられておらず、水平レールに接続され、本胴綱のフックはD環に取り付けられた状態で安全帯等は使用されていない状態だった。	418	1	10～ 29
2018	2	14 ～ 15	民間航空機レーダー施設更新工事に伴うドーム取付け架台の撤去作業において、被災者を含む労働者2名がコンクリート壁（周囲約48m、高さ約3.1m、幅約30cmの円筒状の壁）の上に跨り、約50cmスパンで埋設されていたアンカーボルトの撤去を行っていた際に、被災者が次のボルトを切断するために中腰で立ち上がり後ずさりしたところ、誤って約3.1m下のテラス部に転落し死亡した。	418	1	10～ 29
2018	2	16 ～ 17	太陽光発電設備の造成工事現場において、立木の伐採作業に従事していた被災者が胸高直径28cmの伐倒木の下敷きになっているのを発見された。	712	5	10～ 29
2018	3	16 ～ 17	アンテナ設置工事の見積もりを行うため、同僚と2人でマンションの屋上塔屋部へ登り、既設アンテナの状態とケーブルの配線状況を確認するため、幅24cmのパラペット上を移動していたところ、バランスを崩して23.3m下のアスファルト道路に墜落したもの。	418	1	1～9
2018	3	14 ～ 15	高さ12mのコンクリート柱へアンテナ取付工事中、安全帯のフックを本来胴綱のD環に付けるが、工具サックの落下防止紐取付部に掛け間違えたため、体重をかけた際に工具サックが壊れ、地上に墜落した。	379	1	1～9

2018	5	10 ～ 11	新設鉄塔の基礎工事における災害である。地山掘削、基礎の打設・養生が終了したため、周囲のライナープレートを撤去する作業をしていた。プレート同士をつなぐ48本のボルトのうち2本がライナーに押されて外れず、プレートを吊る4本のワイヤーの張力の偏りを修正するため、バケツを斜め上方に微動させた。直後に土圧でライナープレートが動き、土砂がライナープレートの下部から流入して肩まで土砂に埋まった。	711	5	10～ 29
2018	6	2 ～ 3	現場での作業を終了し会社に戻るため、積載型トラッククレーンに2名で乗車して国道を走行中、緩い右カーブの箇所直進したことから、歩道の端に設置していたガードフェンスに衝突、助手席の労働者が搬送先の病院で死亡し、運転していた労働者が負傷した。	212	17	10～ 29
2018	6	12 ～ 13	地震、火災等の非常事態を作業員に知らせるために、数ヶ月前に約30台の非常灯・サイレンを設置し、初期調整のため午前中に5台の設定を終了、午後から災害発生場所である製品倉庫内のクリーンルームの前室の天井（高さ3.7メートル）に設置した同機の設定のため天井を歩いたところ、天井を踏み抜き墜落したもの。	415	1	1～9
2018	7	8 ～ 9	送電線の架線作業において、ケブラーロープ（以下、「ロープ」という。）回収のため、鉄塔の帰線腕金（高さ約5.1メートル）に固定した金車（約2kg）を介して鉄塔下のウインチで巻取り中、金車が破断した。破断した金車はロープを伝ってウインチ方向に滑落し、ウインチ周辺でロープの整理を行っていた被災者の頭部に直撃したもの。意識不明の状態が続いていたが7月14日の深夜に死亡した。	219	4	10～ 29
2018	7	12 ～ 13	現場内に設置されている作業構台の解体作業において、建物地下3階で作業構台柱（H鋼材）の溶断作業中、発生した火花が下階の免震ピットに施工された吹付ウレタンに引火し火災が発生したもの。	331	16	1～9
2018	7	12 ～ 13	現場内に設置されている作業構台の解体作業において、建物地下3階で作業構台柱（H鋼材）の溶断作業中、発生した火花が下階の免震ピットに施工された吹付ウレタンに引火し火災が発生したもの。	331	16	1～9
		2				

2018	9	3	柱上のトラスビームに乗って作業をしていた作業員が、その80cm上のき電線（直流1500V）に背中が触れ感電し、死亡したもの。	351	13	50～99
2018	9	16～17	深さ2.0メートルの掘削溝にハンドホール（コンクリート構造物）を敷設している際、掘削溝底面で作業を行っていた被災者の背後の法面が崩壊し、被災者は両膝付近まで土砂に埋没するとともに、崩壊した土砂の土圧によって前傾姿勢となり、腹部をハンドホールに強打したもの。	711	5	1～9
2018	11	14～15	電柱の撤去作業中、電柱を2つに切断した後でそのうちの1方を建柱車の移動式クレーン機能を使って引き寄せる作業を行っていた。田の畔を乗り越えさせようとしたが、電柱が畔に引っ掛かってしまい、ショウレン（鋼鉄製の棒状の道具）を使って電柱の向きを変えようとした際に、被災者がバランスを崩して畔から深さ60センチメートルの水路に落下したところへ、移動させていた電柱が落下したため下敷きとなった。	611	4	10～29
2018	11	8～9	電力会社の送電鉄塔の地上約25メートルの地点で点検完了箇所の写真撮影を行っていた際に感電したもの。被災者が写真撮影を行っていた箇所の上部には電圧6万6000ボルトのジャンパー線が設けられており、活線状態で作業が進められていた。災害発生当時、写真撮影を行っていたのは被災者のみであり、他の労働者（3名）は地上で監視業務等を行っていた。	351	13	10～29
2018	11	21～22	空調機の新設工事において、給電ケーブルの敷設工事を作業員5名で行っていた。1名の作業員が脚立（高さ2.64m）に上がって天板にまたがる姿勢で、給電ケーブルを仮固定をしていた番線を解く（ペンチで切断）作業をしていたところ、解かれた同ケーブルが落下し、これを同作業員が受け止める形となり、はずみで脚立上から墜落したもの。（墜落時の足の位置は高さ2.02m）	371	1	1～9
2018	12	10～11	被災者は工事現場に向かうため、軽トラックに1人で乗り、会社を出発し、インターから自動車道を走行中、トンネル手前で対向車線にはみ出し、対向車線を走行していた乗用車に衝突、脳挫傷により死亡した。	231	17	10～29

2018	12	16 ～ 17	被災者は帰社後、一人でダンプの荷台から木柱を降ろしていた。同僚が敷地内の別の場所で作業していたところ、被災者の声を聞いた。声のした方を見ると、被災者がダンプの横の地面に倒れていた。病院に搬送されたものの、後日死亡した。	221	1	10～ 29
2017	1	16 ～ 17	工事の現場作業が終わり、次の現場に車で向かっていたところ、対向車を避けようとして、走行していた川の土手にある道路から、道路の法面を滑り横転して、川に水没し溺死した。	221	17	10～ 29
2017	2	10 ～ 11	被災者は、電柱にケーブルを取付ける作業のため、胴綱を使用し、電柱を昇っている途中、電線が横断する箇所での胴綱を掛け替える際、地面に墜落した（高さ：6.78m）。	351	1	1～9
2017	2	14 ～ 15	被災者の運転するトラックが高速道路を走行中、タイヤがパンクし、路側帯に停車して、車外に出ていたところ、被災者が運転するトラックに後方から来た別のトラックが衝突して、停車中のトラックが衝撃で動き、停車中のトラックと路側帯にあるコンクリート壁の間に挟まれ死亡した。	221	17	1～9
2017	3	10 ～ 11	高圧電線張り替え工事において、張り替え後の高圧電線（6600ボルト）から低圧電線（100・200ボルト）へ変換する変圧器へ電流を送るため、被災者が高圧電線にある遮断器にヒューズを差し込んだところ感電した。	351	13	10～ 29
2017	3	10 ～ 11	光回線のケーブル新設工事のため、電柱に上って作業をはじめようとしていたところ、約5メートルの高さから地上に墜落し、全身を強く打った。上る際には安全帯を「ベルブロック」に掛けていたが墜落した際には、ベルブロックから安全帯は外されていた。	418	1	10～ 29
2017	3	12 ～ 13	施工管理業務を行う工事長として、工事書類の作成、現場の立会い及び工事調整等を行っており、発症前1か月間では月100時間を超える時間外労働が認められた。後に自宅にて体調不良を訴え、病院に搬送された直後に意識不明となり、急性前壁中隔心筋梗塞で死亡した。	921	90	300 ～
		12	被災者は、小学校の敷地内で交流6600ボルト電線の支持ガイシの固定ボルトのナットの増し締め作業を行なうため、高所作業車に乗り、高圧充			

2017	4	～ 13	電部付近で絶縁保護衣を着ていたとき「バチ」と音がして倒れた。なお、保護用手袋は、高所作業車の床上に落ちていた。	351	13	1～9
2017	5	～ 15	14 平屋住宅に太陽光発電パネルを設置する工事で、最終チェックのため現場 に訪れた被災者がなんらかの原因で高さ3mの屋上から墜落し負傷した。 15 入院治療を続けていたが、死亡した。	415	1	10～ 29
2017	6	～ 11	10 被災者が高さ約40mの電線上で電線の移設作業を行っていたところ、何 らかの理由で固定していた電線が外れ、電線とともに地上へ墜落し死亡し た。なお被災者は安全帯及びヘルメットを着用し、また安全帯を使用して 11 いた。	351	1	50～ 99
2017	7	～ 15	14 現場敷地内にて不要となった電柱2本を抜いて持ち帰る作業を10時から 事業主と被災者2名で行っていた。13時45分作業終了後、事業主が電 柱を運搬車に乗せ先に現場を出た。その後、被災者が建柱車にて現場を出 たところ、当該現場付近公道の溝に建柱車の左後輪を脱輪。被災者は脱輪 15 復旧を試みたが復旧できず、運転席にてぐったりしているところを発見さ れた。病院にて搬送後死亡。熱中症と診断。	715	11	1～9
2017	7	～ 15	14 地上5mの箇所で配管に跨がって、設備移設に伴う配線作業を行っていた 被災者が、配管上であお向けになって倒れている状態で発見された。 15	351	13	100 ～ 299
2017	7	～ 1	0 高速道路の電気設備保全管理工事において、走行車線約1450mの車線 規制を行うため、発煙筒、点滅灯、カラーコーン等を順次設置していたと ころ、規制作業中の車線を走行してきたトラック（2.75t）が標識車 1 （4t）に激突し、現場管理員として規制作業を管理していた被災者が当 該標識車に激突され死亡した。	221	17	1～9
2017	7	～ 3	2 高圧ケーブル（電線）張替工事の為、歩道上に巻取車を設置し作業中、 ケーブル延線用の滑材が不足した為作業を中断し、巻取車横で被災者等3 名（電工×2名、警備員×1名）が待機中、走行してきた乗用車に激突さ れた（はねとばされた）はずみで、被災者1と被災者2（警備員）が死傷 3	231	17	10～ 29

			(うち被災者1が死亡)、被災者3は乗用車に激突される前に巻取車上に退避した際打撲を負った。			
2017	7	10 ～ 11	個人住宅の光ファイバーの設置工事において、光ケーブルを個人住宅から国道の反対側にある電柱に引き込み作業を行っていたところ、走行してきたダンプトラックが当該光ケーブルを引っ掛け、はしごから電柱に昇ろうとしていた被災者が、ケーブルに引っ張られはしごから墜落した。	371	1	10～ 29
2017	8	0 ～ 1	時間外労働や休日労働が続き、さらには、仕事上の悩みを抱えており、これら業務上の心理的負担の増大により橋から飛び降り、死亡した。	921	90	30～ 49
2017	9	18 ～ 19	被災者は誘導灯の移設作業を一人で行っていた。午後6時頃配電中継ボックスの近くで死亡している被災者が発見された。誘導灯の設置、配線配管の設置が完了し、最後に電源を供給するためにそれぞれの配線を繋ごうとした際に感電した。	351	13	10～ 29
2017	9	16 ～ 17	軽ワゴン車が、道路（登り車線が2車線、下り車線は1車線）の登り車線を走行中左カーブに差しかかり、走行車線から対向車線にはみ出したため、下り車線を走行してきたダンプトラック（積載荷重9,400kg）と衝突し、軽ワゴン車は転倒した。運転者は死亡し、助手席にいた同僚は顔面等を負傷した。	231	17	1～9
2017	12	0 ～ 1	社用車で自家用車を駐車している契約駐車場に向かう途中、何らかの要因で道路脇の電柱に衝突し、胸を強打し運転席で動かなくなっているところを通行人に発見された。	231	17	1～9
2017	12	8 ～ 9	現場内資材置き場の太陽光パネル（重量：約1トン）を運搬中、トラックからフォークリフト（積載荷重2トン）を使用して、荷降しをしていた。その際に荷崩れしそうになったため、被災者は手で押さえようとしたが、荷崩れした太陽光パネルの下敷きになった。	222	4	1～9
2017	12	8 ～	変電所敷地内の変圧器室にある変圧器の上部に取り付けられたコンサベータ（絶縁油の酸化防止設備）の取替工事において、コンサベータの取替工程が完了したため、室内壁面から一時的に取り外していた吸音材を再び取	352	13	30～

		9	り付ける業務に従事していた被災者が、変圧器の充電電路部（6.6kV）に体の一部が触れた（又は近づいた）ため感電し、死亡した。			49
2016	1	16 ～ 17	雑木林で首を吊っているのが発見された。	921	90	～ 299
2016	1	12 ～ 13	光通信線の接続不具合を修理するための工事に関して、高さ約14mの既設電柱上の約7mの位置で通信ケーブル、吊り線を撤去するため、ケーブル張力を緩める準備作業を行っていたところ、墜落した。	351	1	50～ 99
2016	2	12 ～ 13	電柱建替工事の応援に行くため、事業場から高所作業車を1人で運転し、国道を走行していたところ、吹雪のため減速運転していた大型トラック（箱車）に追突し、同日死亡した。	146	17	10～ 29
2016	2	13 ～ 14	高さ20mの送電線鉄塔（特別高圧）の部品交換を行う調査のため、地上約18mの地点で停電回線にアースの取り付け作業を行っていたところ、感電した。	351	13	1～9
2016	3	1 ～ 2	鉄塔に登り、電線の交換作業中、全4系統の電線交換作業のうち、停電中の2系統の作業を終え、次に停電する予定の系統の作業区域へ移動したところ、通電（2万V）部分に触れ感電し、死亡した。	352	13	10～ 29
2016	4	10 ～ 11	被災者は既設の鉄塔に架かっている電線を新設の鉄塔へ移設する作業をしていた。電線の移設を行う際、電線とワイヤーロープを専用金具で固定させ、緊張状態とした状態で、被災者は移設する電線の上（高さ約50m）に安全帯をかけ、電線に専用金具を設置しようとしたところ、電線、ワイヤーロープを固定している専用金具部分の電線の心鋼の周囲の鋼線が破断し、専用金具から電線が抜け落ちたため、被災者は電線とともに墜落した。	351	1	50～ 99
2016	5	16 ～	送電用鉄塔の基礎工事に被災者含む作業員7名が約30度の斜面で作業中、被災者は土止めに使用する単管46本（約377kg）をブレーカーの上部に玉掛けワイヤーを引っかけて、現場の資材置場から運搬してい	145	1	1～9

		17	た。幅4mの作業道で旋回したところ、作業道脇の高さ1.5mの土止めの柵を乗り越え横転し転落。被災者は運転席から投げ出され、転落したブレーカーのアームと地面に挟まれた。			
2016	5	12 ～ 13	三相6600Vの受変電設備（キュービクル）の扉が開き、その近くで倒れている被災者が発見された。	352	13	1～9
2016	6	1 ～ 2	空港の照明変電所内に設置されている、定電流調整装置の点検及び負荷切替盤内の高圧ケーブル（約3000V）に貼り付けられていたサーモラベルの交換作業中に、一部通電中の高圧ケーブルの接続部を引き抜き、感電した。	351	13	100 ～ 299
2016	6	11 ～ 12	被災者含め3名は、無線局の鉄塔の地上高さ34mの位置にあるプラットフォームで、新たなケーブルの設置工事を行っていた。被災者は、プラットフォームの外側にて作業していたところ、地上に墜落し、死亡した。	418	1	10～ 29
2016	9	18 ～ 19	鉄塔の避雷針取替工事において、地上から31m50cmの高さにある梁上で、被災者が避雷針取替作業を行っていたところ、梁間の開口部から4m18cm下のグレーチング製のステージ上に墜落し、死亡した。	415	1	1～9
2016	12	9 ～ 10	送電鉄塔のアーム上で被災者は同僚2名とともにアース線接地作業を行っていた。被災者は作業中に安全帯の補助ロープを取りはずした後で、何らかの理由でバランスを崩したはずみで、安全帯のメインロープもかけた箇所からはずれ、約40メートル下の地面に墜落した。	418	1	50～ 99
2015	8	9 ～ 10	電柱立替工事において、被災者が、新設の電柱に昇柱してアーム等の取り付け作業を行っていたところ、既設の電柱から家庭へ送られている電線（100から200V）に接触したため、感電し、被災した。なお、送電線には、ビニールテープによる補修箇所が認められた。また、被災者は、雨、汗等により通電しやすい状態であった。	351	13	30～ 49
		10	バイパス上において、道路照明ポール（長さ9.5m、重さ170kg）を撤去するため、トラッククレーン（つり上げ荷重2.9t）で吊り、端部（アンカー部）を地上に着地させた後、先端部を下ろそうとした際に、			

2015	8	～ 11	ポール向きを調整しようとしたところ、当該ポールが被災者側に動き、ポールとトラッククレーン荷台のあいだの間に胸部を挟まれたもの。心肺停止状態で病院に搬送されたが病院で死亡（12：26）が確認された。	212	6	1～9
2015	3	～ 18 19	被災者は、工事現場からの帰りに翌日使用予定の高所作業車をリース会社に寄って借り、これを運転して会社へ戻るため運転中、高さ制限のある陸橋下を走行していた際、作業車上部がボックスカルバートに激突し、その反動でハンドルに胸部を強打し内臓損傷等を負った。事故後入院加療中であつたが4月19日に死亡した。	146	17	10～ 29
2015	1	～ 10 11	班長である被災者は、作業員と共に民家敷地内の不要な電柱（電話線用）の撤去作業を行っていた。この時、被災者が吊り上げ荷重2.64tの積載型トラッククレーンを用いて、高さ8mの電柱を引き抜いた後、作業員が電柱の下部を支えながら、クレーンの脇に当該電柱を移動させていたところ、地上から高さ8.4mの特別高圧線（66,000V）に、吊り上げていた電柱の先端が接触したため、被災者及び作業員が感電したもの。	351	13	10～ 29
2015	3	～ 5 6	工事現場から営業所へ向かう帰路において、社用自動車で国道を走行中、側道から飛び出してきた車両を避けようとし、左ガードレールに衝突したものと推測される。これにより、運転手が搬送先の病院で死亡、助手席に同乗していた同僚が負傷した。	231	17	10～ 29
2015	9	～ 22 23	通信用光ケーブルの張替作業終了後、小用を足すためにガードレールを乗り越えてコンクリート擁壁の上端に立ったところ、足を滑らせ約16m下の川へ転落した。コンクリート擁壁の上端には苔が生えており滑りやすい状況であった。また、現場は照明が無く薄暗い状況であった。	418	1	1～9
2015	1	～ 12 13	県道において、被災者が運転するワゴン車が対向を走行してきたトラックと出会い頭に衝突し、車両の前方右側面が大破し、脳挫傷等により死亡した。【参考】現場付近道路は速度制限無、センターライン無、カーブミラー無 トラック運転手：足に軽度の打撲傷（不休） トラックドライブレコーダー：衝突前は時速30km程度で走行	231	17	1～9

2015	11	14 ～ 15	貨物用エレベーター上部への殺虫灯取り付け作業において、被災者は電線の寸法を測るため、移動はしごで高さ地上約3メートルにあるシャッターボックスの上に上った。計測後、被災者は移動はしごを下りている途中ではしごの下部が滑ってはしごが転倒、被災者が墜落し、頭部を強打した（災害発生の瞬間を目撃した者がいないため、墜落直後の現場の状況から推定。）。	371	1	1～9
2015	6	2 ～ 3	電車線支持物（鉄柱）検修を行うため、1時30分に線路閉鎖を開始し、1時40分にき電停止を行い作業を開始した。上22号柱の検査のため被災者が昇柱し、柱上部で補助ロープを誤って停電していない2号信号高圧線（6600V）に掛けたため感電し、宙づり状態となった。直ちに救急車を手配し、レスキュー隊により地上に降ろされ病院に搬送されたが、4時6分に死亡が確認されたもの。	351	13	50～ 99
2015	2	13 ～ 14	小学校改築工事現場において、現場代理人がトイレの床から1.64メートル下のトイレピット内をのぞき込んだところ、ピット内で頭部周辺に血が広がり、右足の靴が脱げ、仰向けの状態で倒れている被災者が発見され、搬送後急性硬膜下血腫等で入院治療を受けていたが、併発していた誤嚥性肺炎で死亡したものである。	921	90	10～ 29
2015	10	13 ～ 14	被災者は体育館耐震補強工事において、最上段のみ作業床を全面に敷き詰めた足場上（高さ約10.3m）で照明器具の取付状況の点検作業を行っていたところ、開口部（約70cm角）から墜落して死亡した。	411	1	10～ 29
2015	2	9 ～ 10	通信ケーブルの更新工事において、山頂に設置したウインチで旧ケーブルとこれを架設していたメッセンジャーワイヤーを巻き取る際に、メッセンジャーワイヤーに取付けられたケーブル支持用金具を取り外すため、被災者と現場代理人は支柱上で作業を行っていたところ、被災者は高さ約20mの位置から墜落し、現場代理人は手の指を切断したもの。	418	1	1～9
		10	高速道路の路肩に照明灯を設置する工事。照明灯のコンクリ基礎部分を移動式クレーンの荷台から吊って路肩の穴に入れるべく回転させていたところ、路肩側に当該クレーンが横転し、誘導者（一次下請の労働者）が移動			10～

2015	1	～ 11	式クレーンとガードレールとの間に挟まれたもの。荷の重量は1.84 t、吊上荷重は2.93 t、アウトリガーは道路側は出さず、路肩側は中間張出であった。被災労働者は8日後、搬送先の病院にて死亡したものの。	212	6	29
2015	5	～ 17	携帯電話基地局の15mコンクリート柱を立て、補修作業をするために高所作業車を利用していたところ、高所作業車から柱へ移る際か、柱に移って何らかの作業をしていた際に、高さ8m付近から地面へ墜落したものの。	359	1	10～ 29
2015	8	～ 17	同僚3名と門型クレーンの投光器の交換作業を行っていた被災者が、2本の横行レールの間の開口部から約7.5m下の道路に墜落したものの。災害時はペアで配線作業を行っており、被災者は雨よけ用の樹脂製シートにより配線作業を行う同僚の雨よけを行っていた。	211	1	1～9
2015	10	～ 12	鉄塔点検工事において、点検を終えた鉄塔から別の鉄塔へ移動するため、被災者和其他の労働者で山中を歩いていたが、途中から被災者は道に迷い単独で山中を歩いていたところ、斜面から滑り落ち、そのまま林道に墜落して死亡した。	711	1	1～9
2015	8	～ 9	PHS無線基地局の保守業務（半日作業）のため、現場に向けて片側一車線（上り）の国道の右カーブを乗用車で走行中、対向するトレーラーが蛇行しながら中央線をはみ出してきて衝突したものの。被災者が運転し、助手席に社長（右膝下粉碎骨折等）が同乗し、合計2名乗車。【第一当事者関係】①事業場名：略、②所在地：略、③運転者は打撲。合計1名乗車。	221	17	1～9
2015	5	～ 9	太陽光パネル据付工事。廃棄物入れの金属枠を、フォークリフトを用いて仮置き場へ運搬中に、道路から斜面にフォークリフトごと転落したものの。	222	1	10～ 29
2015	1	～ 3	電気通信設備工事の現場において、S（以下、被災者）はF社のWと共に2人で回線の切り替え作業をしていて、途中休憩を社用車の運転席でしていたが、休憩終了時間になっても戻ってこなかった。Wが見に行ったところワンボックスカーの運転席で被災者が意識不明の状態で見られ、病院に搬送されたが、死亡が確認された。車内には発電機があった。	519	12	1～9

2015	4	8 ～ 9	154KVの架空送電電路の張替工事において、ジャンパーガイドの取付け作業を行っていたところ、感電したものの。	351	13	1～9
2015	12	13 ～ 14	1階エントランスホール天井面の照明器具の取替工事において、高さ3.7mの位置の配線作業を8尺脚立（天板高さ2.28m）で行っていたところ、脚立から墜落したものの。被災者は病院に搬送され、処置後にそのまま入院加療を続けていて、状態も快方に向かっていたが、1月28日に容態が急変して呼吸不全により死亡した。	371	1	1～9
2015	3	16 ～ 17	木造新築建屋壁面に地デジアンテナを設置する工事を行うに際し、南西面の2階ベランダの床面からはしご兼用脚立（約4.5メートル）を同壁面に立て掛け、被災者がそれを使用してアンテナ取付金具及び同アンテナを設置作業中、若しくは移動中に何らかの原因により、直下の駐車場に墜落したものの。（地上からベランダ床面まで約3.26メートル）	371	1	1～9
2015	3	15 ～ 16	ロックシェットの内部にある照明装置にかかる改修工事において、高所作業車を運転していた被災者が、当該高所作業車を前進させるためにアウトリガーを収納したところ、車が後退した。被災者は動き出した車を止めようとして並走したが、その間に車に激突され、転倒した。	146	6	1～9
2015	11	0 ～ 1	被災者は電柱の新設後、路面から高さ2.12メートルの擁壁上の斜面に生えた雑木の伐採作業を行っていたところ、斜面から路面上に滑り落ち頸椎骨折、急性大動脈解離等の負傷により療養中であったが、平成27年1月21日に死亡したものの。	711	1	1～9
2015	8	15 ～ 16	被災者が冷凍機の配線工事作業中、配線に電圧がかかっていたのにケーブルカッターで配線を切断したことから地絡を起こし、感電死したものの。	351	13	1～9
2015	2	7 ～ 8	ワゴン車を運転して事務所から施工現場に向かう途中、災害発生地付近にさしかかった際、路面の凍結によりタイヤがスリップし、対向車線にはみ出し、対向してきたトラックと衝突したあと、路肩の立木に衝突して停車した。被災者は市内の病院に搬送され治療を受けていたが、くも膜下出血	231	17	1～9

			により平成27年3月13日に死亡した。			
2014	2	10 ～ 11	被災者は、鉄骨製の折板屋根上で、太陽光パネルを梱包していた段ボールの回収作業を行っていた際、屋根上に設けられた厚さ6.6ミリメートルの網入りガラス製のトップライト（幅0.8メートル、長さ19メートル）を突き破り、高さ6.12メートルの高さからコンクリート製の床面に墜落した。尚、ヘルメットは着用していた。	416	1	10～ 29
2014	2	11 ～ 12	高所作業車のアウトリガーを格納中、被災者はアウトリガーと、車体との間に頭部を挟まれた。	146	7	30～ 49
2014	3	11 ～ 12	片脚橋形クレーンの月次検査をガーダ上で行っていた際、動作確認のため同僚がクレーンのトロリの横行を行ったところ、被災者はトロリ側の給電ケーブルの支柱と、点検歩道側の支柱との間に頭部を挟まれ、ガーダ上の点検歩道から約9m下まで転落した。	211	7	10～ 29
2014	4	16 ～ 17	3本の電線と1本のアース線に倒れかかった伐倒木を地上へ下ろす際、被災者が伐倒木に登り、木の先端部分をのこぎりで切断したところ、切断した部分が3本の電線に引っかかっていた部分であったため、伐倒木を支えていたアース線が重みに耐えきれず、切断し、伐倒木と共に被災者が転落した。	712	1	10～ 29
2014	4	15 ～ 16	ライトバンで国道を走行中、イエローセンターラインをはみ出し、対向車線のトラックと正面衝突し、出血性ショックで死亡した。	231	17	1～9
2014	4	9 ～ 10	スレート葺の屋根に上り、設備の設置位置の確認のため、墨出し作業を行っていたところ、被災者は、屋根頂部付近よりスレート屋根を踏み抜き、約6.9m下に墜落した。	415	1	1～9
2014	4	12 ～ 13	国道を走行中、運転を誤り、川に転落した。	231	17	30～ 49

2014	4	15 ～ 16	電柱の工事終了後、写真撮影を行っていた際、斜面の下方で倒れている被災者が発見された。	711	1	1～9
2014	5	10 ～ 11	変電所の変電設備の点検中、母線が設置されている構造物に上った被災者は、立入禁止区域を示す「危険」表示を設置する場所を誤認し、活線側に2か所設置し、点検作業の一つである母線の取付け部分の碍子をウェスで拭こうとしたところ感電した。	351	13	1～9
2014	5	9 ～ 10	信号機の電球取替え作業中、高所作業車のかご内で作業を行っていたところ、走行していたウイングボデーのトラックが高所作業車のブームに衝突し、衝撃で被災者がかごから外に投げ出され、約4m下の道路上に墜落した。	146	1	1～9
2014	6	14 ～ 15	電車の架線の上にて、高圧線および高圧アレスター（落雷等による過電流を逃がす装置）の付け替え作業中、通電部と接触し、感電した。	351	13	50～ 99
2014	7	9 ～ 10	天井裏に電源ケーブルを通す作業中、ケーブルの先端に取り付けられた金具を牽引用ロープに接続し、引っ張っていた際、牽引ロープの編込み部分が抜け、金具から外れ、脚立に乗り引っ張っていた被災者が体勢を崩し、墜落した。	371	1	1～9
2014	7	19 ～ 20	空調機点検中、くも膜下出血により死亡した。	999	99	1～9
2014	7	12 ～ 13	動力電源のルート変更工事にて、工場敷地内にある配電盤のブレーカーの端子を取り換えるため、ケーブルカッターでブレーカーの活線を切断しようとしたところ、感電し、死亡した。	352	13	1～9
2014	7	23 ～ 24	自動車道を走行中、前方の落下物を避けようと、ガードレールに接触し、反動で走行中のトラックに接触。被災者が車外に振り落とされ、後続の自動車にはねられた。	231	17	10～ 29

2014	8	14 ～ 15	ケーブルテレビ線からのアース線の接地作業中、被災者が電柱上でアース線の取付作業を行っていたところ、高さ6.5mの柱上から地面に墜落した。	419	1	1～9
2014	8	16 ～ 17	空調リモコン取付作業中、剥がしておいた天井板を復旧するため、高さ1.6mの脚立を使用し、充電ドライバーでビス止め作業を行っていたところ、バランスを崩し、木組床面に墜落し、死亡した。	371	1	1～9
2014	9	13 ～ 14	電線の引き込み工事中、被災者が高所作業車の運転席のドアを開け、高所作業車の外から上半身のみ運転席に入り、エンジンをかけたところ、高所作業車が前方に動き出し、高所作業車のドアが電柱に衝突。衝撃で閉じたドアと高所作業車の間に挟まれた。	146	7	1～9
2014	9	11 ～ 12	アパート（3階建）の屋上にて、携帯電話の配線、端末設置作業中、屋上から3階へ下りた際、昇降ステップより墜落。3階腰壁の手すり（屋上から2.3m下）にぶつかり、6.9m下の1階の敷石床に激突した。尚、被災者は作業着、安全帽、滑り止めの作業靴、ハーネス型の安全帯を着用していた。	419	1	1～9
2014	11	9 ～ 10	民有地の電柱建替工事現場にて、木製電柱を複合柱へ取替える作業中、木製電柱に登っていたところ、電柱の根元が腐食していたために折れ、倒壊し、電柱と共に地面に激突した。尚、被災者は保護帽を着用し、U字吊り用の安全帯を使用していた。	351	5	10～ 29
2014	11	9 ～ 10	排水処理施設増設工事にて、電気工事を行っていた被災者が、沈殿槽と呼ばれる槽に転落し、死亡した。	414	1	1～9
2014	11	23 ～ 24	駅構内の地下配電室にて、融雪器の劣化状況等を確認する検修作業中、被災者が、融雪器電源を停電した後、一部の電源のみ復電し、高圧ケーブル端末のカバーを取外したところ、加圧部に触れ、感電死した。	352	13	1～9
2014	12	15 ～ 16	電気室にて、被災者の手が高圧真空電磁接触器の充電部に触れ、感電し、死亡した。	352	13	1～9

2013	7	15 ～ 16	太陽光パネルの電気配線工事において、物音に気付いた第一発見者が音がした箇所に行ってみると、移動梯子と被災者が倒れており、近くに配線を支持するための金物が落ちていた。被災者は、外壁に配線を支持するための金物を取付ける作業（取付箇所高さ7メートルの外壁面）を行っていたことは分かっているものの、被災直前の作業行動や作業姿勢は目撃者がおらず不明である。	371	1	1～9
2013	11	10 ～ 11	工場屋根上において、太陽光パネルの設置工事のため、ケーブル配線を持って移動していた被災者は、屋根上の一部に設けられた明り取り用のプラスチック製波板箇所を踏み抜き、約8.7m墜落した。尚、被災者は、床面から約3.8メートルの高さまでパレット積みされた飼料上に1度当たってから、床面まで墜落したものと推測される。	415	1	1～9
2013	9	11 ～ 12	被災者は、無線アンテナの電波を測定する作業を行っていた。高さ約15mの鋼管柱に昇り、3種類のデータのうち2種類を取り終え、頂部付近にあるアンテナの高さを変えて測定を行おうとした際、当該マストからコンクリートの敷地に墜落した。尚、被災者はU字つり一本つり兼用安全帯、飛来・落下物用保護帽を着用していた。	351	1	10～ 29
2013	7	1 ～ 2	終電終了後、脚立を開き移動はしごとして使用し、はしご上で信号点検作業を実施していた被災者は、脚立から転落し、線路上に倒れているところを発見された。	371	1	1～9
2013	4	16 ～ 17	被災者は、光ケーブルの接続作業を行うため、高所作業車を空地に停めて作業箇所である電柱の確認をしようとしたところ、高所作業車が被災者に向かって逸走してきたため、手で止めようとしたが、高所作業車を止めきれずに轢かれた。尚、空地は前の道路に向かって約15度の傾斜があり、道路は約9度の傾斜があった。	146	7	1～9
2013	5	10 ～	電柱の先端付近にある金具の点検補修のために、作業員2人で道路上（坂道）に高所作業車を設置する段取り作業を行っていたところ、バケットを動かすことができないといったトラブルが生じたが、それを解消するために、いろいろ試みていた最中に、同車両が逸走した。被災者はそれを止め	146	7	50～ 99

		11	ようとして、同車両の後部において支えようとしたが、側溝に足を取られ仰向けに転倒し、アウトリガーと側溝の間に腹部を挟まれ死亡した。			
2013	7	10 ～ 11	配電工事現場において、電柱から事務所に電線を引き込む準備を行なうため、被災者は建物壁面に移動はしごを据え付け、高さ約6.7mの取付金具へ向かい上り始めていた。そのことに作業責任者が気づき、はしごの転位を防止するため、片足ではしごを支えながら電話中、突然はしごが転位を始めたので両手で支えたものの、被災者が地面に墜落した。	371	1	100 ～ 299
2013	12	17 ～ 18	被災者は、道路脇の電柱に設置された街灯（高さ約5m）の蛍光灯を交換する作業中に墜落した。	371	1	1～9
2013	1	10 ～ 11	マンション建設現場において、電気工事の下請事業者（3次下請代表）が、地下に電線を埋設するため、地面からの深さ1.5m幅1mの溝を重機にて掘削し、その溝内に自社の労働者を入らせ作業をさせていたところ、溝の側面が崩壊し、当該労働者が生き埋めになった。	711	5	1～9
2013	2	14 ～ 15	被災者は、ATC新設のため不要になったケーブルを撤去する工事において、踏切信号機に接続するケーブルを保護するコンクリートトラフの蓋を閉める作業に従事していたところ、通過電車が進入し、退避が遅れた被災者が当該電車に接触し、被災した。	232	18	10～ 29
2013	2	13 ～ 14	被災者は、工場等屋根への太陽光発電パネル設置工事において、工場敷地内の電柱の高さ（6.2m）付近の電気配線作業中、敷地外の道路に墜落し、頭部を打った。	418	1	1～9
2013	8	9 ～ 10	被災者は、光ファイバケーブル敷設工事作業を、高所作業車を使用して行っていた。突然「蜂に刺された」と言いながら、バケットを自ら操作し降りてきたものの、降車後、ぐったりし発汗状態となり、呂律が回らない状態になったため救急搬送された。	719	90	10～ 29
		13	作業員6名により、変電所の既設建物内に配電盤（重さ750kg）を設置する作業において、当該配電盤をナイロンスリングで玉掛し、チェーン			

2013	9	～ 14	ブロック（つり上げ荷重1 t）を2台使用（フック同士をシャックルでつなぎ合わせた状態で使用）して巻き上げ、横行させようとしたところ、フックからナイロンスリングが外れて配電盤が落下し、当該配電盤を押さえていた被災者がその下敷きになった。	361	4	1～9
2012	6	～ 15	小型移動式クレーン（つり上げ荷重2.95 t、建柱車仕様）を用い、コンクリート製電柱（2.59t、長さ17.05m）を当該車両の荷台に積み込むため、電柱を1本づりで約1mつり上げ、被災者が電柱の一端を押しながら電柱を回転させていた際、前方のアウトリガーが浮き上がり、車体がつり荷側に傾いて電柱が落下し、被災者が電柱の下敷きになった。	212	4	1～9
2012	9	8 ～ 9	現場事務所での朝礼後、3台（先頭車両：軽トラック、次走車両：電柱を積載した2 tトラック、3台目車両：被災者が運転する穴掘建柱車）に分乗して現場に向かっていたところ、先頭車両が道を間違えた事に気づき減速をはじめたが、3台目で追走していた被災者はそれに気づかず、前方の2 tトラックに追突したため、（2 tトラックが）積載していた電柱が被災者の顔面に激突した。	221	17	30～ 49
2012	8	～ 15	被災者は所属する事業場の代表者と2名で、現場において電話線を引き込む作業を行っていた。被災者は、代表者と離れた箇所で保安器と呼ばれる設備の配線作業を行っていたが、代表者により作業を行っていた箇所の近くの水路で倒れているところを発見され、外傷性脳挫傷により、死亡が確認された。	418	1	1～9
2012	4	11 ～ 12	製鉄所構内の冷圧中央変電施設内において、変圧器と配電盤を結ぶダクト内の清掃作業を行っていた際、配電盤内の2次側ブスバーに被災者が接触し、感電死した。なお、配電盤内の1次側ブスバーについては停電していたが、2次側は通電（11Kv）されていた。	352	13	1～9
2012	11	～ 17	作業員6名で変圧器（重量2.9 t）を配電盤内に設置するため、4機の油圧ジャッキを用いて、四隅をジャッキアップし、変圧器の下の車輪をレールに載せ換えようとした際、変圧器が配電盤の奥側に転倒し、（6名の作業員のうち）2名が被災した。被災者2名のうち1名は変圧器の下敷きとなっ	352	6	10～ 29

			て死亡し、もう1名は負傷した。			
2012	2	5 ～ 6	道路交通信号の改修工事が終了し、高所作業車を運転して事業場倉庫へ戻るため県道を走行中、道路脇の田に高所作業車ごと転落した。	146	17	1～9
2012	4	9 ～ 10	被災者は工場の火災警報装置架線ケーブル張替工事において、はしごで作業中に墜落した。	371	1	10～ 29
2012	7	12 ～ 13	道路の地下に設置してあるマンホール内の電線移動状況等の点検作業において、被災者はマンホール外での道路上作業を実施後、食事のため自動車を約50m運転したところ脱輪した。同乗者が異変に気付き、被災者を涼しい場所へ移動し、着衣を緩め、少量の水分を摂らせて濡れタオルで頭部と胸部を冷やし、救急車を手配し病院に搬送したが、熱中症と認められる原因で死亡した。なお、災害発生日の気温は36度、湿度は38%であった。	715	11	1～9
2012	9	15 ～ 16	低圧（100V）及び高圧（6、600V）電線を被覆している樹木等の擦れによる損傷防止用のプロテクターを付け替える作業を行っていたところ、誤って高圧電線に右手が触れて感電死した。なお、被災者は低圧用保護手袋を着用しており、高圧用保護手袋はズボンのポケットに入っていた。	351	13	1～9
2012	1	16 ～ 17	被災者はフォークリフトを使用して事業場の除雪を行っていた（除雪した雪は、駐車場と道路の間にある用水路に捨てていた）ところ、右前輪が傾き運転席から放り出され、その上にフォークリフトが倒れてきて、頭部がフォークリフトの下敷きとなり死亡した。	222	2	30～ 49
2012	11	15 ～ 16	被災者は可搬式作業台（高さ約2m）の上で中腰の状態で電線管に墨付けを行い、可搬式作業台の上でしゃがんで右に体をひねるようにして、横で控えていた作業員に墨付けをした電線管を手渡した後、バランスを崩し当該可搬式作業台から転落した。	419	1	10～ 29
		15	光ケーブル引き込み作業において、約8度の傾斜の道路で登り方向に対し前進で高所作業車を配置した。サイドブレーキを引き、全輪に車止めをし、高所作業車の後部の操作盤により後方のアウトリガーを張り出してい			50～

2012	9	～ 16	たところ、後部車輪が浮いた瞬間に高所作業車が後方へ滑り出した。アウトリガーを操作するも止まらず、はさまれる間際まで退避しなかった被災者は、高所作業車と後方の電柱との間に挟まれた。	146	7	99
2012	8	～ 20	19 産廃炉定検工事において、被災者が工事写真撮影に出たまま戻らないため探したところ、燃焼ストーカー下のシュートで倒れているのが発見された。	921	90	～ 299
2012	11	～ 21	20 工事現場から高所作業車で会社に戻るため高速道路を走行中、雨で路面が濡れていたため、後輪がスリップして左側のガードレールに衝突後、横転し、被災者（運転手）が死亡した。	146	17	1～9
2012	4	～ 8 9	8 店舗の電気配線工事において、被災者は梁に配線を通す穴（高さ約3m）を開ける作業中、電気ドリルを持って脚立（最高位約1.5m）を昇る際、約1mの箇所から床面（コンクリート）に墜落して頭部を強打し、脳挫傷により死亡した。	371	1	1～9
2012	4	～ 15	14 被災者は電気設備の点検整備作業において、特別高圧変圧器の一次側ガイシをウエスで清掃しようとして変圧器の一次側ガイシに近づいたところ、感電して約3m下に落下し、全身火傷を負い、背骨、頸椎を骨折した。	351	13	～ 299
2012	10	～ 8 9	8 電話線の更新工事中、空中に張った電話線の撚りを取るため、安全帯を電話線を支持している張線に掛け、中吊り状態で電話線の撚りを取っていたところ、安全帯が胴部から胸部にずり上がり胸部を圧迫され、死亡した。	379	90	1～9
2012	6	～ 14 15	14 被災者は同僚らと光線の移設工事を行った後、事業場へ戻るため被災者が軽ワゴン車を運転し、助手席に同僚を乗せ、国道を走行していた。その際、被災者が対向車線にはみ出したため、対向してきた4tトラックと正面衝突した。被災者は外傷性ショックにより死亡し、同僚は負傷した。	231	17	10～ 29
2012	9	～ 18 19	18 被災者は工事の打ち合わせを行なった後、社用車（1tダブルキャブトラック）を運転して宿泊先の旅館に向けて走行中、転回中であつたスクーターバスの右側面に衝突し、車両が炎上して焼死した。	221	17	10～ 29
			鉄塔解体工事において、地上高さ60メートルの鉄塔ステージ上で、ガイ			

2011	3	12 ～ 13	デリック（吊荷重1.95トン）の据え付け、デリックブームの起伏ワイヤロープをチルホールで緩める作業を行っていたところ、同起伏ワイヤロープがチルホールから抜けたため、ブームが倒れて、作業指示をしていた被災者がブームとステージ手すりとの間に頭部を挟まれたもの。救出にあたったが、現場で死亡が確認されたもの。	213	5	100 ～ 299
2011	4	10 ～ 11	インターネットの光回線をアパートの1室に引き込むため、被災者が電柱に上がりワイヤー固定用の金具を取り付けた後、一旦地上に降りようとして、高さ4.64メートルから地上に墜落し、病院に搬送されたが死亡したものの。	418	1	1～9
2011	9	9 ～ 10	共同アンテナケーブルを撤去するため、移動はしごを家屋に立てかけ、はしご上（高さ4.4m：下部を2名が支えていた）でケーブル切断作業中、切断したケーブルを持ってはしごを降りようとした所、ケーブルに引張られ墜落した。事故後リハビリ治療を行っていたが、脳挫傷を原因とする誤嚥性肺炎により死亡した。	371	1	10～ 29
2011	9	16 ～ 17	電柱に脚立をはしごとして立てかけ、当該脚立はしご上で作業していたところ墜落したものの。被災者は安全帯を使用しておらず、保護帽も着用していなかった。	371	1	10～ 29
2011	5	15 ～ 16	工場2階において、天井の梁から吊り下げられた蛍光灯の吊り金具の取り外し作業を行っている際、使用していた2段のローリングタワー上で、当該ローリングタワーから離れていた箇所にある吊り金具を外そうとして、無理な姿勢となりバランスを崩し、3.6メートル程下の床面に墜落したものの。	411	1	1～9
2011	8	12 ～ 13	被災者は、ビル改修工事で電気工として勤務していた。午前中の作業終了後、工事現場付近に駐車していた社用車で昼寝をしていたが、昼休憩終了後も部下の呼びかけに応じなかったため確認したところ、心肺停止の状態であった。その救急車で病院に搬送されたが、午後4時頃に死亡が確認されたものである。（元請の所轄である堺署により、業務上の認定がなされたもの。）	715	11	10～ 29

2011	6	17 ～ 18	社用車に4名が同乗し、彦根料金所の現場から帰社するために高速道路を移動中、社用車の左前輪がパンクしたため、路肩に車を寄せてスペアタイヤに交換する作業を行っていたところ、後方から来た4 tトラックが車線をはみ出し社用車に接触して、社用車の後部右ドア付近にいた被災者をはねたもの。他の3名は監視役の者の声掛けにより退避したが、被災者は逃げ遅れたものである。	221	17	10～ 29
2011	11	5 ～ 6	県内で通信設備の電気工事を終了後、トラックとバンに7名が分乗して会社に戻る途中、県内の高速道路下り線において、4名が乗車していた2トントラックの右前タイヤがパンクしたため、路肩に停止し、2名がパンク修理し、残り2名が当該車両の後方で交通整理を行っていたところ、後方より走行してきた大型トラックに3名が跳ねられ、いずれも死亡した。	221	17	1～9
2011	11	5 ～ 6	県内で通信設備の電気工事を終了後、トラックとバンに7名が分乗して会社に戻る途中、県内の高速道路下り線において、4名が乗車していた2トントラックの右前タイヤがパンクしたため、路肩に停止し、2名がパンク修理し、残り2名が当該車両の後方で交通整理を行っていたところ、後方より走行してきた大型トラックに3名が跳ねられ、いずれも死亡した。	221	17	1～9
2011	11	5 ～ 6	県内で通信設備の電気工事を終了後、トラックとバンに7名が分乗して会社に戻る途中、県内の高速道路下り線において、4名が乗車していた2トントラックの右前タイヤがパンクしたため、路肩に停止し、2名がパンク修理し、残り2名が当該車両の後方で交通整理を行っていたところ、後方より走行してきた大型トラックに3名が跳ねられ、いずれも死亡した。	221	17	1～9
2011	7	9 ～ 10	小高い山の上に設置されたテレビアンテナの撤去工事において、アンテナ基礎の解体に使用したドラグ・ショベル（車体幅約85センチメートル）を下山させるために幅約90センチメートルの林道を走行中に、被災者ごと路肩から転落し、運転席から投げ出された被災者が当該ドラグ・ショベルの下敷きになったもの。	142	1	10～ 29
		10	市発注の街路灯の更新工事において、被災者は街路灯の柱にハシゴをかけた、当該ハシゴを使用して地上2.8mの高さでガイシの取り付け作業を			

2011	7	～	行ったところ、ハシゴのバランスが崩れ、被災者はハシゴとともに、地下	371	1	1～9
	11		道に続く階段（GLより深さ1.7m）に墜落したもの（墜落高さ約4.5m）被災者は病院に搬送されたが、7月15日死亡した。			
2011	7	～	現場作業を終え、帰社するのに普通貨物自動車へ同僚らと乗り、高速自動	231	17	1～9
	19	～	車道内に落下物があったため急ハンドルを左に切ったところ、壁面と接			
	20		触、あわてて右に切ったところ車両が横転し後部座席にいた被災者が車外			
			へと放り出され胸部を打ち、死亡したもの。			
2011	1	～	光ファイバーにかかる電柱の設備工事のため、被災者は労働者A、Bと共に、傾斜5～6度の道路脇に高所作業車を止め、車止めをタイヤ4つ全て	229	7	1～9
	10	～	に置き、アウトリガーを張り出し、作業を開始しようとしていたところ、			
	11		高所作業車が雪で滑りだしたため、被災者と労働者Aが2人で高所作業車を人力で止めようとしたところ、被災者が雪で滑って高所作業車の下面と			
			地面の間に挟まれ、頭部陥没のため死亡したもの。			
2011	12	～	受電設備から新設工場へ電線を引き込むため、ケーブルラックの取付を被	146	2	1～9
	14	～	災者1名で高所作業車を使用しながら行い、作業床を高さ約4.8mのま			
	15		ま次の位置まで移動したところ、ケーブルラック基礎部分に乗り上げ、高			
			所作業車ごと転倒し、建屋壁に頭部を激突させ、被災日翌日の午前5時48分に、脳挫傷及び硬膜下血腫により死亡した。			
2011	12	～	工場内の電話機設置及び電話線布設工事を行っていた。被災者は、同僚と	414	1	1～9
	10	～	2階天井裏で電話線の引き込み作業を行っていたところ、電話線を固定す			
	11		る材料が不足したので、取りに行こうとして、被災者の後ろの開口部（点			
			検口70cm四方）から3m下のコンクリート床に墜落した。病院へ搬送されたが、12月25日に死亡した。			
2011	2	～	高圧耐張碍子取替作業において、直接活線工法で作業を行ったが、着用し	351	13	1～9
	13	～	ていた電気用ゴム手袋の絶縁効力が低下していたため、絶縁破壊を起こ			
	14		し、感電したもの。			
			被災者等6名は作業車1台、高所作業車3台、資材運搬車1台、巻取車1			
			台に分乗し現場に向かう途中、被災者の乗車する高所作業車が県道を走行			

2011	11	8 ～ 9	中、対向車の軽乗用車がガソリンスタンドに入ろうと右折したところに正面衝突した。そのはずみで、被災者の運転する高所作業車はガソリンスタンド構内に進入・横転した後、スタンド内防火壁に激突した。被災者は救出後病院で死亡が確認された。軽乗用車運転者は両手負傷。	231	17	10～ 29
2011	3	12 ～ 13	照明設備工事において、工場内の照明設備の安定器の確認を行うため高さ約7mのデッキを移動中、デッキ中央部にある開口部（直径約2m）から床に墜落し死亡したもの。	414	1	1～9
2011	11	16 ～ 17	地上約40メートルの高さでの送電線の相間スペーサ（送電線のブレ止めのため送電線同士を固定する棒状のもの。）取付作業において、相間スペーサの取り付けが終わり地上に降りるため送電線から鉄塔に移る段階になって、被災者の異変に同僚が気づき、同僚が被災者をロープで地上へ降ろしたが既に意識がなく、救急車で病院へ搬送されるも低体温症による死亡が確認された。	715	11	30～ 49
2011	12	11 ～ 12	津波で損傷した建物の改修作業を作業員2名で行っていた。高所作業車に乗って作業を行っていた同僚作業員が、物音がしたため、音のした方を見るとローリングタワーの脇に倒れている被災者を発見した。直ちに救急車を手配したが、被災直後は腕の痛みを訴えるものの意識ははっきりとしており、会話ができる状態であったが、救急搬送先の病院で容態が急変し死亡したもの。	411	1	10～ 29
2011	12	14 ～ 15	電波塔のアンテナ及びケーブル線撤去工事現場において、高さ約30mの箇所から墜落した。	418	1	1～9
2010	12	15 ～ 16	被災者は、交換局でのケーブル接続作業を終えて事業場に向かうため、国道を会社所有の軽自動車で行く途中、路面が凍結しており、被災者の車がスリップし、センターラインを越えて走行し、対向してきた大型トラックと正面衝突した。	231	17	10～ 29
			電線に係る木の枝の伐採が完了した為、坂道に停めていた高所作業車を移			

2010	12	13 ～ 14	動しようとしたが、進行方向に邪魔になる枝があり、バケット内の操作装置でバケットの90度首振り操作をした。高所作業車後部の操作装置でアウトリガー格納後、車外から運転席のPTO（走行と架装部操作の切替）レバーを「走行モード」にした直後、高所作業車が逸走し、坂下で監視作業中の被災者が作業していた高所作業車の間に挟まれ死亡した。	146	7	1～9
2010	11	4 ～ 5	支持物強化工事において、電圧6600Vの負荷がかかっている活線と解放された停電線が張られている電柱上部付近に被災者が高所作業車のバケットを操作し近接して作業を行っていたところ、感電し死亡したもの。被災者が、高圧活線の電線を停電線であると誤認し、活線作業用器具を使用せずにその電線の被覆をナイフではぎ取っていたため感電したとみられる。	351	13	30～ 49
2010	10	21 ～ 22	国道地下のケーブル撤去工事現場において、工事規制区域（左側車線。長さ約400m）に、走って来たトラック（4t車）が赤信号を無視して突っ込み、保安柵等をなぎ倒して交通規制標識積載車両（2tトラック）に追突した。この追突のため、交通規制標識積載車両が押し出されるようにガードレールに追突して横転し、被災者（工事責任者）が下敷きとなり死亡した。	221	6	100 ～ 299
2010	10	20 ～ 21	温泉リゾート施設新築工事現場において、電気設備工事を請け負う1次下請の労働者が、地下2階の電気室に設置された空調機械の制御を行う動力盤付近で、交流200Vが通電している制御用ケーブルをケーブルカッターで切断していたところ、感電して死亡した。1人作業であったため、発生時の状況は不明であるが、発見時、被災者は絶縁手袋を着用しておらず、グリップ部分に絶縁テープが巻かれたケーブルカッターがあった。	352	13	50～ 99
2010	9	10 ～ 11	被災者は、民家の家庭用火災報知器の設置のための電気配線工事において、電気配線の作業を1人で行っていたが、事業場から被災者に電話連絡が取れないため、事業場の担当者が当該民家に赴き、被災者の所在を確認していたところ、2階の天井裏（暑熱環境）で倒れている被災者を発見したものの、既に死亡していた。なお、死因は熱中症と推定されたもの。	715	11	1～9

2010	9	16 ～ 17	被災者は、サッカー場の夜間照明増設工事現場において、照明塔に設置された高さ約17mの作業床において照明の増設作業を行っていたところ、作業床に設置されたタラップの開口部（防止措置なし）から墜落したものである。被災者は病院に搬送されたが、死亡が確認された。	414	1	10～ 29
2010	8	10 ～ 11	工場の屋根の棟部に設置してあった避雷針の撤去作業を2人で行っていたが、一旦休憩を取った後、作業を再開するため、先に1人で屋根に上がった被災者が、当該屋根の棟部のスレートを踏み抜き、約11.19m下の地面に墜落し、死亡したものの。	415	1	10～ 29
2010	7	15 ～ 16	国道において、電柱を立てる穴（直径約30cm）を掘削中、国道を走行してきた乗用車が現場に進入し、作業員をはねたもの。	231	17	1～9
2010	7	9 ～ 10	携帯電話用基地局の点検作業のため、被災者を含む2名がアンテナの鉄塔に昇り、最上部での点検を終え、次の点検箇所である高さ約10m部分の鉄塔接続部まで被災者が先に降りながら写真撮影を行っていたところ、地面に墜落したものの。U字つり用安全帯を掛け替える時に、1本つり用安全帯を掛けずにU字つり用安全帯を外したためとみられる。	418	1	10～ 29
2010	7	15 ～ 16	電柱の移設作業現場において、被災者は電柱に登り作業を行っていたところ、高さ約9mの箇所から地面に墜落したものの。安全帯や胴綱が適正に使用されていなかった。	351	1	50～ 99
2010	7	16 ～ 17	被災当日の一般家庭へのケーブルTVの引込み工事が終わり帰社するため、被災者はトラック搭載式高所作業車を運転し国道を走行中、反対車線から居眠りもしくは脇見によりセンターラインをオーバーしてきた4tトラックに正面衝突され、搬送先の病院で死亡が確認されたもの。	221	17	1～9
2010	6	11 ～ 12	午前の作業を終え、同僚が車両（高所作業車）を運転し道路脇に駐車した。被災者はその前方で昼休憩のためビニールシートを敷く等の準備をしていた。同僚は駐車ブレーキをかけ、車止めをするために車両を降りたところ、駐車ブレーキが不十分だったため車両が勾配（約5度）に沿って走り出した。このため、被災者は車両にひかれ、車両と道路の路肩の法面に	146	7	1～9

			はさまれ死亡した。			
2010	5	9 ～ 10	被災者が運転する高所作業車（同人のみ乗車）が道路を走行中、対向車線を走行中のダンプがスリップし反対車線へ飛び出した。高所作業車の前部とダンプの後部とが衝突し、被災者は死亡した。被災者は他の3名と現場に向かう途中で、3台の車に分乗していた。	221	17	50～ 99
2010	5	13 ～ 14	作業終了後、高所作業台（高さ2m）を体育館内から移動し、屋外に停車してある積載型小型移動式クレーンに積込もうとしたが、体育館玄関の軒が邪魔であり、直接クレーンへ積込むことが困難なため、玄関の階段（高さ14cm×4段）を下ろそうと、高所作業台に玉掛けしてクレーンで横引きしながら、3名で運搬していたところ、高所作業台がバランスを崩し、被災者側に倒壊し、はさまれた。直ちに病院に搬送されたものの、死亡した。	612	5	10～ 29
2010	4	15 ～ 16	高さ約50mの鉄塔の上部の作業床にて、アンテナの取り付け作業を行っていたところ、昇降口付近から墜落した。安全帯を使用しておらず、昇降口に手すり等が設置されていなかった。	418	1	10～ 29
2010	4	12 ～ 13	2階建て民家の大屋根上のアンテナ取換工事を2名で行い、1名が大屋根上の既設アンテナを撤去し、玄関屋根上の被災者に取り外したアンテナを渡し、引き続き大屋根で作業を行っていたところ、梯子の倒れるような音がしたため下を見ると、梯子が外れていて、被災者が仰向けに倒れていたもの。救急搬送後、頭部の負傷により8日後に死亡したもの。	415	1	1～9
2010	3	10 ～ 11	高所作業車に乗って電柱に支線を張る作業において、重みで垂れ下がった支線が現場付近を走行していた運送車に引っ掛けられたため、作業をしていた被災者が引っ張られ、高所作業車から約8.6m下の道路に墜落したもの。なお、保護帽は正しく着用していたが、安全帯は腰に付けていただけでフックをバスケットに取り付けていなかった。	146	1	10～ 29
2010	3	13 ～	JRの駅構内で低圧電線（100V）撤去工事作業において、電柱に上って作業をしていたところ、電線の切断直後に、昇っていた電柱（木製）が腐食によって根元から折れ、頂部付近で胴綱を着けて作業していた被災者	351	1	1～9

		14	が、電柱とともに近接する鉄道レール上に倒れたもの。救急車にて病院に搬送されたが、死亡したもの。			
2010	2	14 ～ 15	高圧ケーブル取替工事に使用する配管材料を、ワゴン車より変電所内へ積み下ろし作業を行っていたところに産業廃棄物を運搬するダンプトラックがわき見運転により突っ込んだもの。被災者は飛散した車体の一部が体にあたり、病院に搬送されるも3日後に全身打撲により死亡した。また、同じ作業を行っていた労働者も車体と変電所壁にはさまれ、頭部挫傷により即死した。	221	6	1～9
2010	2	14 ～ 15	高圧ケーブル取替工事に使用する配管材料を、ワゴン車より変電所内へ積み下ろし作業を行っていたところ、産業廃棄物を運搬するダンプトラックがわき見運転により突っ込んだもの。被災者はワゴン車と変電所壁にはさまれ、頭部挫傷により即死した。また、同じ作業を行っていた労働者も全身打撲により死亡した。	221	6	1～9
2010	1	11 ～ 12	受電設備の新設工事において、長さ14mのコンクリート製電柱を立てるため、移動式クレーンを使って深さ1.4mの穴に電柱を建て込み、電柱下方に根枷を取り付け、土砂を埋め戻し、ドラグショベルのバケットで転圧した。その後、作業指揮者である被災者が高さ11mの位置まで電柱に登り、玉掛けワイヤーロープを外したところ、電柱が倒れ、電柱とともに地面にたたきつけられ死亡したもの。	351	5	1～9
2010	1	16 ～ 17	工場内においてLAN配線およびコンセント配線工事を行っていたところ、ケーブルラック上（高さ5.49m）に配線を行うため、ケーブルラックに梯子をかけて登っている際に、梯子脚部が滑り梯子先端部がケーブルラックから外れたため、梯子ごと床に墜落し前頭部を強打し、脳を負傷して死亡したもの。	371	1	1～9
2010	1	14 ～ 15	コンテナバースのマンホール内において、電源ケーブル（6600V、約42Φ）の引き込み作業中、隣接するマンホールから入れた電源ケーブルをウインチで引き出していたところ、マンホール内壁に設置した滑車の取付金具が突然破損し、マンホール内で滑車の状態を監視していた被災者の	379	4	1～9

			顔面を滑車が直撃した。被災者は3日後に死亡した。			
2010	1	15 ～ 16	屋内運動場放送室内に設置する電線の引き込み作業のため2階部分で作業を行っていた被災者が作業を終了し、1階へ降りる際、立入禁止となっている放送室上部へ移動した。昇降の際、既設の階段を使用せず立入禁止区域に設置されたはしごより昇降しようとしたため、3.7m下のステージ上へ墜落し被災したものの。	417	1	1～9
2010	1	16 ～ 17	労働者5名にて防災無線用の支柱の据付作業中、支柱の先端部となる8、9基目（結合済）の部材取付けのため、支柱に伸縮式はしごを結束し、当該はしごの先端部に滑車を掛けてワイヤロープの先をドラグショベルに固定して当該部材を吊り上げていたところ、部材が傾くと共に、はしごの中央付近がマストの荷重により折れたため、被災者が折れたはしごとともに高さ約11mの位置から地面に墜落し、被災したものである。	219	1	1～9
2009	12	15 ～ 16	高圧受電設備移設工事現場において、現場責任者であった被災者が、本件工事で移設するキュービクル（屋根までの高さ2.6m）の上に上がり、キュービクルに電線を引き込んでいた電柱の電線の行き先確認を目視で行っていた時、コンクリート打設された地上に墜落した。安全帽、安全帯を着用していた。	418	1	10～ 29
2009	2	13 ～ 14	油圧ハウジング（制御盤、重量950kg）を撤去し、ハンドリフトで搬出作業中、狭い場所から搬出するためにハンドリフトに積んだ油圧ハウジングの位置をずらす際、油圧ハウジングのバランスが崩れ、介添えをしていた被災者の方へ倒れてこのハウジングの下敷きとなった。	362	5	1～9
2009	11	10 ～ 11	前日に伐採した木（根株：径1m、長さ3.0m、質量約1.3t）を積載形トラッククレーン（つり上げ荷重：2.93t）で荷台に積込作業を行っていたところ、同クレーンを運転操作していた被災者が、根株と荷台にはさまれた。	212	6	10～ 29
2009	9	9 ～	被災者を含む3人で自社倉庫に設置している天井クレーン（重量約4t）を移動式クレーン（51t）を使用して移設する作業を行っていたところ、玉掛け用ワイヤロープが切断したため、つっていた天井クレーンが落下し、	372	4	50～

		10	高所作業車の作業床及び作業床に搭乗していた被災者に当たり、被災者が作業床とともに2階床に転落し、さらに1階コンクリート上に転落した。			99
2009	10	16 ～ 17	被災者が高さ約5.8m程の位置にある水銀灯の位置を調整する工事を行うための準備工を行っていた。水銀灯の位置を調整するため、水銀灯の配線を手工具を用い切断し、配線を延長するために延長用の配線を繋ごうと圧着用の手工具を用い圧着しようとしたところ、被災者が感電した。	351	13	1～9
2009	8	13 ～ 14	配電室移転に伴う分電盤新設工事において、既に敷設され、仮結束されている2次側ケーブルをバンド結束に交換しているとき、露出している主開閉器の充電部分（3層交流200V）に触れて感電した。絶縁用保護帽は付近にあったが、被ってはいなかった。	352	13	1～9
2009	7	9 ～ 10	通信設備工事（家庭への電話開通、移転等工事）を行う個人事業者が、2軒目の工事を終え3軒目の家庭へ作業員1人と共に軽自動車に乗って移動中、対向車線を走行中の大型トレーラーが中央分離帯を乗り越えて対向車線にはみ出し、被災者の乗る軽自動車と正面衝突した。軽自動車はトレーラーと側壁にはさまれ、2人とも死亡した。	221	17	0
2009	2	13 ～ 14	キュービクルの定期点検修繕工事において、キュービクル内で清掃作業を行っていたところ、6600ボルトの電圧の銅板に接触し感電した。	352	13	1～9
2009	2	1 ～ 2	鉄柱建替工事に伴う引込線移設工事現場において、作業指揮者である被災者は、2台の高所作業車の中で高所作業車の荷台に資材を積込み中、対向車線を走行してきた車両が中央線をはみ出して1台の高所作業車に激突した。その弾みで高所作業車が他方の高所作業車側に移動し、高所作業車間で作業をしていた被災者がはさまれ死亡した。	231	17	100 ～ 299
2009	2	9 ～ 10	長年、電気工事業務に従事し、石綿建材にばく露されたことにより被災した。	514	12	1～9
			高所作業車で工事現場へ向かう途中、当該高所作業車は信号機のある交差			

2009	12	8 ～ 9	点で停止し、青信号になり発進し、交差点に進入した際、左からワゴン車が信号を無視し同交差点に進入し、衝突事故が発生した。当該高所作業車の左側面に衝突された。反回転後、左側面を下にして横転し、衝突のほずみで車外に放り出された助手席にいた被災者が、当該高所作業車の下敷きとなった。	231	17	30～ 49
2009	8	14 ～ 15	送電線建設工事の架線作業において、鉄塔上で作業員7人が緊線作業（電線を既定の弛度に張り、鉄塔腕金に取付けられた碍子（がいし）に接続する作業）を行い、被災者は、腕金へと移動するため鉄塔に取付けられたはしごで降りようとしたところ、約35m下の踊り場へ墜落した。被災者は、命綱を取付ける器具（リスと呼び、レールに沿って移動し、非常の際は、レールを噛み、墜落を防止する）を使用していた。	371	1	30～ 49
2009	11	9 ～ 10	被災者単独で、建物壁面に設けられた屋外水銀灯の不具合箇所の確認作業のため、屋根に上がって水銀灯を視ようと、社有車から市販のアルミ製移動はしご（長さ4.25m）を降ろし、軒高3.15mある軒先に据え付けていた。その後、客先の従業員が衝撃音に気づき、屋外に出たところ、倒れていた移動はしごの上部昇降面とコンクリートの地面との間に被災者が仰向けになった状態で発見され死亡した。	371	1	50～ 99
2009	10	12 ～ 13	火力発電所から変電所に送電するための送電線の架線工事中において、A鉄塔からB鉄塔に向かって送電線に接触防止のラインスペーサを取り付ける作業を午前10時より開始し、午後0時30分にB鉄塔に到着した。B鉄塔に到着後、鉄塔を下りるためのロリップを取り付ける直前に高さ79mの鉄骨から53m下の踊り場に墜落した。	418	1	30～ 49
2009	1	12 ～ 13	土止め用H鋼くいの引抜作業において、移動式クレーンにくい抜き用アタッチメントを取り付けてH鋼を引抜き、地上に降ろしていたところ、アタッチメントの下部が外れて落下し、付近で玉はずし作業をしようとH鋼の近くにいた被災者を直撃した。	143	4	1～9
2009	3	10 ～	トラッククレーンを用いて電柱の積み込み作業中、作業場内で変圧器の運	222	6	30～

		11	搬を行っていたフォークリフトと激突した。			49
2009	9	15 ～ 16	17階型枠スラブにおいて、被災者2人が、階段開口部をふさぐために梁型枠上に掛け渡された8枚のデッキ（デッキ1枚につき、長さ2750cm、幅61cm、厚さ1.6mm、重さ30kg）上で話をしていたところ、突然梁型枠の一部が外れ、デッキ5枚とともに、約8m下の作業構台上に墜落した。1人が死亡し、1人が負傷した。デッキ上には、被災者の外、パイプ馬と呼ばれる鉄製の道具30個等が置かれていた。	418	1	1～9
2009	9	13 ～ 14	小学校校庭夜間照明設備工事において、投光器等を設置した支柱（長さ15m、重さ約2.4t）をヒノキ製の木製架台に乗せて斜めにした状態で、被災者が当該支柱の下に潜り込んで安定器を接続していたところ、木製架台が破損し、落下した当該支柱の下敷きになった。	379	4	1～9
2009	6	11 ～ 12	ファミリーレストランの駐車場の照明塔（高さ4.5m）に、遮光板を取り付ける作業を単独で行っていたところ、はしご（脚立を180度展開してはしごにした。長さ4.2m）が水平方向に転位し、駐車場に隣接する排水溝（排水溝の底から駐車場までの高さ2.2m）に墜落した。なお、作業時、被災者の安全帯、保護帽は車両の中にあり、着用していなかった。	371	1	1～9
2009	1	10 ～ 11	ビル内の高電圧（6600V）ケーブルの経年劣化による更新工事において、高圧ケーブルを通すためエレベーター機械室と変電室の間にあるコンクリート壁に穴をあけるにあたり、感電防止措置を講じずに変電室側でペール缶を使用し、ノロ受け作業を行っていた被災者が、誤って充電部分に触れてしまい感電した。	352	13	1～9
2009	9	1 ～ 2	新幹線トロリー線張替作業において、トロリー線の固定金具等を取外した後に仮つり用具でつっていたところ、工事区間がカーブしていたことから、張力が高まった際、トロリー線が仮つり用具から外れ内側に反発し、被災者に激突した。	351	6	50～ 99
2009	12	14	被災者は、市場青果棟内において、高さ9.28mの天井に設置してある照明機器（水銀灯）の清掃作業を高所作業車のバケットに乗り行っていたところ	146	7	30～ 49

		15	ろ、バケットと天井の鉄骨梁の間にはさまれ死亡した。			
2008	9	14 ～ 15	配電工事で、高圧活架線（6600V）の巻きつけバインド取替え作業中、休憩のため高所作業車を下降しようとした際、高圧電線に肩が触れて感電した。	351	13	30～ 49
2008	4	12 ～ 13	被災者は、農道を軽ワゴン車で走行していた際、緩やかな左カーブを通過中にガードレールに衝突した。その際、車外に投げ出されて横転した車体の下敷きとなり死亡した。	231	17	1～9
2008	10	14 ～ 15	被災者が引込バケット車（高所作業車）でアウトリガーのジャッキアップによる車両設置作業を行っていた（16度の勾配地）。そのとき引込バケット車付近で異常音がしたため、近くで作業していた作業者が振り向いたところ、被災者が引込バケット車と後方に停車していた運搬車の間にはさまれ死亡していた。	146	7	50～ 99
2008	10	14 ～ 15	被災者は、2階建ての木造住宅の外壁に立て掛けたはしごに上り、2階屋根の樋付近に取り付けられた配線を撤去した。その後、はしごから下りていたところ、隣家のコンクリートの駐車場に墜落した。	371	1	30～ 49
2008	7	9 ～ 10	低圧電気の仮設の引込線の撤去作業にあたり、電柱に登ってケーブルカッターで線の切断をしていたところ、感電して取り付けていた安全带により宙づりとなった。工具のにぎりは絶縁被覆されていて、手のひら面がゴムの手袋を使用していた。	351	13	10～ 29
2008	11	10 ～ 11	22,000ボルトの特高配電盤の点検作業中に配電盤の背面上部遮蔽板を取り外したところ、受電引込点に取り付けられた避雷器が充電部に近付いて感電した。	351	13	1～9
2008	3	13 ～ 14	倉庫の上屋新築工事において、屋根底上で照明器具配管工事をしていたところ約7mの高さから墜落した。	415	1	1～9
2008	7	15	工場の改造工事でシャッターを撤去するために、足場上でシャッターのモーター配線（1次側配線と2次側配線がある）を切断して1次側と2次側	351	13	1～9

		16	の配線を活線のまま接続する作業をしていたところ感電した。			
2008	12	14 ～ 15	被災者は、電柱建替え工事に伴い、情報通信架線を移設するために旧電柱に昇り当該架線を取り外す作業を行っていた。旧電柱の地上約8.1mの箇所 所で作業をしていた被災者は、架かっていた情報通架線を全て外したところ、当該電柱の地下約20～40cmが損壊していたため、電柱が根元から倒壊して下敷きになった。	351	1	1～9
2008	7	4 ～ 5	既設電源線（無電圧）撤去作業において、引抜き用ロープ取り付け中に電源ボックス内の他の電源線（AC200V）に接触して感電した。	351	13	10～ 29
2008	3	8 ～ 9	被災者が軽貨物自動車です工事現場に向かうため、県道を走行中に反対車線を走行していた乗用車がセンターラインを超えてきて正面衝突した。	221	17	1～9
2008	7	10 ～ 11	共同受信アンテナから地上デジタル放送への切替のため、地上デジタルアンテナの設置と既設の引き込み通信ケーブルの撤去工事を行っていた。長さ4.46mのアルミ製移動はしごを軒高4.05mの隣接工場の建屋に立て掛け、はしご上から通信ケーブルを切断した際に墜落して死亡した。	371	1	1～9
2008	7	16 ～ 17	工場内の電気設備撤去工事において、被災者は通電されていないはずの既設電線約150本の撤去作業に従事し、ケーブルラック上に乗り手持式ケーブルカッターを用いて切断したところ、通電された100Vの電灯用活線ケーブルが紛れ込んでいたため感電した。なお、現場には絶縁用手袋が用意されていたが、被災者は皮手袋を着用しており、その皮手袋は汗で濡れた状態であった。	351	13	1～9
2008	9	14 ～ 15	住宅のケーブルテレビの雷障害を調べるため、被災者は付近の市道で路面がやや傾斜している場所に高所作業車を停めてアウトリガーを張り出し設置した。被災者は、作業車のサイドブレーキを掛け忘れたため、作業車がゆっくり後退し始めた。被災者は、あわてて作業車の後方にある操作盤で止めようとしたが間に合わず、作業車と被災者の後方に駐車してあった乗用車に体をはさまれて死亡した。	146	7	1～9

2008	8	14 ～ 15	制御設備の入れ替えに伴う既設ケーブルの撤去作業中、建屋2階から3階を貫通している不要なケーブル（200V）を撤去するため、被災者が2階天井裏に入り、皮手袋を着用してラチェット式ケーブルカッターで切断する作業を行っていたところ感電した。	351	13	10～ 29
2008	1	14 ～ 15	電柱の柱上に設置の開閉器と同開閉器用の変圧器を繋ぐリード線の切断面（6600ボルト充電）に、高所作業車の絶縁用作業台にいた被災者が接触して感電した。	351	13	30～ 49
2008	3	16 ～ 17	倉庫棟駐車場内において、被災者は、同僚が運転する高所作業車の駐車誘導を行っていたが、駐車位置まで誘導して車が停車した後、タイヤの変形防止のためにアウトリガーを張り出そうとして車後部にある操作盤に移動した際、車が急激に後退したため車と棚にはさまれて被災した。	146	6	1～9
2008	1	11 ～ 12	被災者は、電線の地中化に伴う引込み線の変更工事において、当該引込み線の取付作業のため、装着した「柱上安全带」の主フック側を電柱に巻いて、当該電柱を登っていた。途中でケーブルテレビのBOXがある腕金をかわすため、同安全带の補助フックを腕金のバンド締付けの金属棒にかけて主フックを外し、腕金を越えようとしたところ、手を滑らし、約7m下の道路面に墜落して死亡した。	419	1	50～ 99
2008	9	11 ～ 12	鉄塔の建替に伴い、送電線を既設鉄塔から仮設鉄塔に移し替える際、4名の作業者が張り出し部の上で碍子（がいし）を取り外す作業をしていたところ、地上45m付近で本体部分が折れて墜落した。	418	5	10～ 29
2008	9	11 ～ 12	鉄塔の建替に伴い、送電線を既設鉄塔から仮設鉄塔に移し替える際、4名の作業者が張り出し部の上で碍子（がいし）を取り外す作業をしていたところ、地上45m付近で本体部分が折れて墜落した。	418	5	50～ 99
2008	5	13 ～ 14	鉄塔付近の木を伐採するため、発注者2名及び請負会社3名（出張作業）により伐採範囲等を調査して伐採範囲にビニールテープで区割りをする作業を行っていた。被災者から頂上付近での調査開始の無線連絡があった後、別の作業者が落石のような音を聞いたため、被災者に対して連絡をしたが連絡が取れないので被災者を捜索したところ、血を流して倒れているのを	711	1	30～ 49

			発見した。病院に搬送後死亡した。			
2008	11	13 ～ 14	木造家屋建築現場の1階屋根上において、ケーブルテレビの引込線設置作業を行っていたところ、高さ5.0mの屋根上から地面に墜落した。なお、被災者は安全帯を雨樋に掛けて使用していたが、当該雨樋ごとはずれて墜落した。	415	1	1～9
2008	7	11 ～ 12	木造2階建の個人住宅にケーブルテレビのケーブルの引き込み工事を行うため、玄関上の屋根にアウトリガー付きはしごを立てかけ、使用する材料を当該屋根上に運搬中にはしご上部から地上（道路上）へ墜落した。	371	1	10～ 29
2008	7	1 ～ 2	元請事業場の建設業付属寄宿舍の食堂のコンロ付近から出火して寄宿舍が全焼し、2名が死亡、1名が火傷を負った。	391	16	1～9
2008	7	1 ～ 2	元請事業場の建設業付属寄宿舍の食堂のコンロ付近から出火して寄宿舍が全焼し、2名が死亡、1名が火傷を負った。	391	16	1～9
2008	7	13 ～ 14	自社構内の建築物（車庫：鉄骨造スレート葺）の屋根上（高さ3.6m）において、社員訓練教材用の高圧配電線の取り付け作業を作業員2名で行っていた。作業の途中で部品を取りに行こうと屋根の上を移動していた時にスレート屋根を踏み抜き、墜落した。	415	1	10～ 29
2008	11	9 ～ 10	工場内の配電盤（幅4m、高さ2m、重さ675kg）の移設工事を3名で行っていた。既設のアンカーボルトを外した後、外し残りがいないかの確認のため、2名の作業員がそれぞれバールを配電盤の下に入れて配電盤を床から浮かせて確認していたところ、配電盤が被災者側に倒壊して下敷きになり死亡した。	359	5	1～9
2008	12	9 ～ 10	国道上で光ケーブルの敷設工事の準備作業中、ワンボックスカーが道路の右側を通行して作業員2名をはね、1名が死亡、1名が重傷を負った。	231	6	10～ 29
		3	架空電車線（直流1500V）に掛けたはしごの上で架線柱（架空電車線の支			

2008	9	～	持物) と架空電車線とをつないでいる碍子(がいし)の取替え作業中に架空	351	13	1～9
	4		電車線に触れて感電した。			
2008	5	9	被災者は、同僚作業員8名と既存のアンクル鉄塔(地上高さ約70m)にパ	213	6	1～9
	10		ラボラアンテナの取付作業をしていた。アンテナ架台(L型アング ル、474kg)を鉄塔上部に取り付けようとして仮設の鋼製ブーム(鋼製ト ラス支柱、長さ約4m、80kg)の先端に滑車を取り付けて近隣の樹木に固 定したウインチで滑車を經由させワイヤーで当該架台をつり上げていたと ころ、鋼製ブームが折れて鉄塔上で合図をしていた被災者を直撃した。			
2008	11	23	空港内に設置された航空保安無線設備の更新工事において、被災者は夜間	418	1	10～
	24		一人で新設した鉄塔(GS空中線柱、高さ16m)に上がり、約8mの箇所 で同軸ケーブルを結束固定していたクレモナロープの手直し作業中に墜落し た。翌朝、鉄塔下で倒れているところを発見された。			29
2008	2	17	被災者は、照明柱の照明器具の角度調整をするため安全帯(2丁掛け)を	359	1	10～
	18		着用して高さ約19mの照明柱に登り、調整作業を行った。作業を終えて照 明柱を降りるため安全帯の親フックを外した際に、足を滑らせ足を乗せて いた照明器具の取付用架台から約1m落下した。その際、親フックの金具 が取付用架台と照明柱の隙間に引っかかり宙づり状態となり、死亡した。			29
2007	9	16	通信設備工事中、マンホール設置のために車両系建設機械を使用して2.	711	5	10～
	17		35m掘削し、土止め用鋼製矢板打設中に掘削面の一部が崩壊し、作業員 が土砂で生き埋めとなった。			29
2007	9	7	被災者は会社の車である軽のワンボックスカーに乗って工事現場に向かっ	221	17	10～
	8		てトンネル内を走行していたところ、対向車のトラックが前車のトレー ラーに追い越しをかけ、中央線を越えてきたために正面衝突した。			29
2007	5	9	ラフタークレーン(つり上げ荷重25t)及びアース・オーガを用いて、	143	4	10～
	10		高さ約19mのコンクリート製支柱の埋め込み、建て直し作業中、ア ース・オーガのジブに取り付けられていた掘削用錐(重量約140kg)が 落下し、同ジブの約5m下方で作業中の被災者に当たった。			29
			電柱に設置された柱上変圧器(6000V～200Vへ変圧)の取替工事			

2007	7	15 ～ 16	中、柱上変圧器へ入電するリード線を結線する作業をしていたところ、左肘が活線状態となっていた高圧引下げ線（6000V）に当り、その際右肘も地上接地が取ってある碍子保持金具に近接していたため、高圧引下げ線→被災者→碍子保持金具の順で回路ができ、感電した。小雨のため高圧引下げ線には絶縁対策は行われず、かつ高圧引下げ線上流側も断線していなかった。	351	13	10～ 29
2007	6	13 ～ 14	被災者を含め3人で電線の復旧、足場周りの片付け作業を行っていた。施主から腕がねの調整を要請され、足場に上がるため、玄関前の入口付近から足場の2層目に移動はしごをかけて登っていた際、はしご（足場の2層目辺り、高さ約4m）から地上へ墜落した。	371	1	1～9
2007	2	11 ～ 12	電力線用の鉄塔を既存の鉄塔と同じ場所に建替える工事において、既存の鉄塔（高さ36m）の電線を工事に支障がないよう仮設のアームに移動させる作業の準備を行っていたところ、鉄塔の高さ28m付近から墜落した。被災者は移動キーロックと胴綱を具えた安全帯を装着していたが、使用していなかった。	351	1	50～ 99
2007	7	14 ～ 15	ケーブル架設工事において、メッセンジャーワイヤーを電柱間に張り渡す作業中、電柱に登り作業を行っていた作業者が、地上高さ約7mの箇所から墜落した。	351	1	10～ 29
2007	2	12 ～ 13	店舗の通信設備工事が終わり、バケット車で会社事務所へ帰る途中、市道交差点において、普通自動車と出会い頭に衝突し、バケット車が横転し、被災者が死亡した。	231	17	1～9
2007	6	13 ～ 14	被災者は同乗者2名とともに工事現場に向かうため、トラック（1250kg）で本社を出発して高速道路を走行していた。走行中に突然車両が揺れだしたため、ハンドル操作で立て直そうとしたが蛇行の末、2、3回横転して、運転していた被災者が死亡した。	221	17	30～ 49
2007	10	23 ～	工事で使用する小型移動式クレーン（つり上げ能力2.93t、自重1.92t）をトラックから別の小型移動式クレーン（つり上げ能力4.9t）で降ろそうとしたところ、当該クレーン(別のクレーン)が転倒し、	212	2	10～ 29

		24	運転席から転落した運転手（被災者）が下敷きになった。			
2007	6	2 ～ 3	鉄道軌道内の信号場において、架線柱の梁に架け渡された送電線配管を梁上にて解体する作業に従事していた被災者が、途中から配管が外れなくなったために反対側から作業しようとして、加圧中の送電線が架かる対面の柱のタラップを昇って点検台に上がろうとした際、高圧配電線の引下線に接触し、感電死した。	351	13	10～ 29
2007	12	15 ～ 16	他の作業員1名と共にケーブル配線作業中の被災者が天井クレーンのランウェイから8.5m下のコンクリート床下に墜落した。被災者が作業していたランウェイ（幅30cm）端には手すり等はなく、防網の設置もなかった。災害時の被災者は、保護帽、安全帯、安全靴を着用していたが、親綱等もなく安全帯は使用していなかった。	418	1	1～9
2007	5	19 ～ 20	9階建ての既設マンション屋上で行われていた携帯電話基地局建設工事において、作業員7名がアンテナの設置作業中、被災者は、屋上端から身を乗り出し、アンテナケーブルのテーピングを行っていた。被災者は作業を終え、屋上内部に戻ろうとしたところ、地上27.3mの高さから墜落した。	418	1	10～ 29
2007	7	18 ～ 19	高さ5.5mの照明灯先端に取り付けられているランプを取り外す作業を行うため、軽トラックの荷台上から、照明灯の地上約4.5mの位置にはしごを立て掛け、はしごと照明灯をロープで結びつけていたところ、照明灯の根元が腐食していたために、はしごと被災者の重みで照明灯が倒壊してしまい、はしご上から公園入口のコンクリート製スロープに墜落した。	371	1	1～9
2007	5	11 ～ 12	鉄骨3階建ての工場新築工事中、被災者が外部足場の近くの地面にうつ伏せで倒れているのが発見された。	415	1	1～9
2007	12	12 ～ 13	自動車道トンネル内で、電気設備の保守点検のため、車線規制用の規制車を停止し、交通誘導員が誘導を行っている中で、規制用の機材の設置を行っていたところ、一般のトラックが突っ込み、機材の荷下ろしを行って	221	17	10～ 29

			いた被災者が、相手のトラックと規制車の間にはさまれた。			
2007	3	15 ～ 16	被災者は、密閉型引込ヒューズ・取替工事に伴い、アーケード上の電線のヒューズ状況等の確認のため、アーケードに既設された昇降はしごを登っている際に、手をかけたはしご最上部の溶接箇所が劣化していたため、はしご上部が折損し、当該折損部分とともに約8.9m下の道路に墜落した。	413	1	1～9
2007	5	11 ～ 12	被災者は学校内の外灯（電球までの高さ約4.3m）の電球を交換する作業を行っていた。被災者は電柱に脚立を掛けた状態で作業しており、脚立若しくは電柱から墜落した。	371	1	10～ 29
2007	10	16 ～ 17	信号柱に登りケーブル線交換工事を行っていた。ケーブル線を柱の先端から2方向にテンション張りするため、一方を終えてもう一方のケーブルを工具を使用して締め付けていたところ、突然、信号柱が中央部で折れて柱の上部で作業していた被災者は柱とともに地上に墜落した。	418	1	30～ 49
2007	12	14 ～ 15	被災者は高所作業車で水銀灯の取り付け作業を行っていた。休憩にするよう指示を受けたため、高所作業車のバケット内で操作を行っていたところ、建物の梁とバケットにはさまれた。	146	7	1～9
2007	9	12 ～ 13	工場内廃水処理ポンプ盤への仮設電源供給工事のため商用電源を復電させ、廃水処理ポンプ盤へ供給していた仮設の発電機の停止を被災者は作業長と行った。被災者は、次に仮設発電機からの電源ケーブルの撤去を行うため一人で制御盤に向かい作業をしていたとき、商用電源のケーブル接続金具に触れ感電した。	352	13	1～9
2007	7	11 ～ 12	地中に埋めてある電線の取替工事において、電線（長さ191m）が巻いてあるケーブルドラムを固定するため、ケーブルドラムの左下にストッパーを噛ませた。続いて、ジープウインチカー（ウインチ付きの車）のワイヤーを地中管から通して電線と接続。巻上げを開始したところ、ドラムが動きだし、それを押さえようとした被災者が下敷きになった。	219	6	10～ 29
		11	電線移設工事のために電柱を囲むように設置していた足場組立作業中、作業床の端または足場を構成する単管、あるいは電柱に設置された枠・ス			10～

2007	4	～ 12	テップのいずれかから地上へ墜落した。安全帯の使用はなされていなかった。	411	1	29
2007	4	19 ～ 20	被災者は、仕事を終え、事業場から会社所有の乗用車を運転し、帰宅していたところ、市道交差点において、右側から直進してきた相手方の乗用車（通勤）と出会い頭に衝突した。現場は信号機のない十字路で、被災者側に一時停止の標識があった。	231	17	1～9
2007	9	10 ～ 11	被災者は、水銀灯増設工事に伴い建物から既設の水銀灯への引込電線（地上から8mの位置にあった）を取り外すため、2階ベランダに脚立を設置し、ベランダ手摺りと脚立に足を掛けて電線を取り外した直後に墜落し、アスファルト舗装の地面に激突した。なお、保護帽は着用していなかった。	419	1	10～ 29
2007	9	11 ～ 12	ナセルの最中心部に位置する区画（軸受部）にて、被災者ほか1名がローターベアリング内のグリースを交換する作業を行っていたところ、当該区画の隔壁にある点検口とその外側を囲む回転体（突起物）との隙間に被災者がはさまれ死亡した。当時、共同作業者は当該回転体にロックピンを挿入するためローターブレーキを一時的に解除したが、このとき被災者が点検口内に入っていた。	352	7	30～ 49
2007	9	15 ～ 16	高所作業車のバケットに搭乗した被災者が、電柱（地上約11m）頂部に取り付けられた碍子及びこれを支持するアームを交換する作業に従事していたところ、高圧電流（6600ボルト）で感電した。	351	13	1～9
2007	12	17 ～ 18	電話回線の故障復旧作業のため、被災者が高所作業車のバケットに乗り、建物（コンテナ型店舗）軒下で作業中、バケットが上昇し、建物との間にはさまれ死亡した。	146	7	1～9
2007	3	9 ～ 10	電柱設置関連工事において、電柱設置の支障となる雑木林の伐採作業後、枝切り木の束を小型移動式クレーン積載形トラックに積み込むため、被災者が荷台の荷の上（地上高2m）で、クレーンを右手で無線操作し、左手でつり荷を押さえようとしたところ、バランスを崩して地上高2.86m	212	1	1～9

			の挿し枠上部（コンパネ）を越えて、仰向けの状態で道路へ墜落した。			
2007	7	14 ～ 15	休憩後、次の作業現場へ向うため、高所作業車で国道を直進中、運転操作を誤り対向車線にはみ出し、対向してきた軽トラックと衝突した。	146	17	10～ 29
2007	8	9 ～ 10	携帯電話の無線基地局鉄塔のカラスの巣撤去作業にあたり、作業員3名で作業中、はしご道上で作業をしていた被災者が高さ約9.3mのはしご道から地上に墜落した。	413	1	1～9
2006	4	13 ～ 14	製油所の定期修理工事にあたり、高圧電力配電盤の点検清掃を請け負っていた事業所の労働者が、室内配電盤から繋がっているコンデンサーボックス内の清掃を行おうとしたところ、当該コンデンサーの系列は活線であったが、コンデンサーボックスを開けて待つよう指示を受けた労働者は、そのまま清掃作業に入り感電した。	352	13	1～9
2006	12	23 ～ 24	国道及びその隣接地において被災者を含む6名の作業員が工事を行っていたところ、走行してきた4tトラックが現場付近に配置していた交通誘導員の制止を振り切り作業場所に突入、被災者をはねた。	221	17	1～9
2006	12	10 ～ 11	事業場より通信工事現場へ社有車（ライトバン）で向かっていたところ、対向車線にはみ出し、対向してきた大型トラックと正面衝突した。ライトバンを運転していた労働者が収容先の病院で死亡し、同乗者が負傷した。	231	17	1～9
2006	12	22 ～ 23	電気工事を終了し、工事現場からライトバンにて事業場へ戻る途中、国道の交差点で右折しようとしていた大型トレーラーに追突し、ライトバンを運転していた労働者と同乗していた労働者の2名が死亡した。	221	17	10～ 29
2006	12	22 ～ 23	電気工事を終了し、工事現場からライトバンにて事業場へ戻る途中、国道の交差点で右折しようとしていた大型トレーラーに追突し、ライトバンを運転していた労働者と同乗していた労働者の2名が死亡した。	221	17	10～ 29
2006	12	11 ～	高圧電線の張替え工事において、被災者は高所作業車のバケット内で本線の誘導作業を行っていた。古い線と新しい線を結ぶためのワイヤと古い線との結び目が延線ローラー部に引っかかり、結び目がほどけて、被災者が	146	1	10～ 29

		12	緊張の解けた新しい線にひっぱられてバケットから約1.1m離れた位置に墜落した。			
2006	12	16 ～ 17	被災者は無線中継局の施工不良個所の巡回点検工事を行っていたが、作業終了後に宿泊先に4tトラック（トラック積載型小型移動式クレーン）で移動中、国道において、点検のため路肩に停車中の大型トレーラーに追突した。運転者が負傷し、助手席に同乗していた被災者は死亡した。	221	17	1～9
2006	10	11 ～ 12	電話線補修工事を被災者を含め作業員二人で行っていた。民家の二階屋根のコーナブラケットを取付けなおすため、ほぼ水平になるように渡したアルミ梯子を通路とし、垣から一階屋根にあがり、コーナブラケットを取り付けた。作業終了後、他の作業員が音を聞き、音のした方を見ると被災者が3.2m下の軒下に倒れているのを発見した。	371	1	1～9
2006	9	13 ～ 14	消防法に基づく消防設備の防煙垂壁の点検作業において、地面から天井までの高さ3mから垂れる防煙垂壁を、高さ1.1mの脚立を用いて、点検作業を行った。作業が終了し、防煙垂壁をもとの位置に戻し、脚立から降りる際に足を踏み外し転落した。	371	1	1～9
2006	9	0 ～ 1	ケーブルを接続する出張作業中（1日のみ）、高所作業車を方向転換するため被災者は車から降りて車の誘導を行っていたが、その直後に運転手が門柱と被災者が倒れているのを発見した。	418	5	1～9
2006	9	15 ～ 16	貸与を受けていた小型移動式クレーン（重量1.2t）を貸与者に返却するため、貨物自動車に積載して重機置場へ被災者1人で搬送し、貨物自動車から道板を使用して地上に降ろしていたところ、当該移動式クレーンがバランスを崩し転倒し、被災者はその下敷きになった。	212	1	10～ 29
2006	2	15 ～ 16	2階建ての店舗兼住宅の建物の屋根に衛星受信用アンテナを取り付けるために、建物玄関前から屋根にはしごを立て掛けて、地上から屋根に登ってアンテナを取り付ける途中で地上に墜落した。	415	1	1～9
2006	8	15 ～ 16	工場の電気設備工事において、電気ケーブルの結線作業を行うため、工場に移動はしごを建てかけて作業していた際、2.75メートルの高さよりコンクリート上に墜落した。	371	1	1～9

2006	6	6 ～ 7	ケーブルテレビの布設の夜間工事を行い、作業が終了したので、自社へ戻るため、高所作業車（自社所有）に労働者2名が乗車して走行中、高所作業車が大型トラックに追突し横転、更に中央分離帯に衝突した。高所作業者の助手席側に乗車していた者が死亡、運転席側の者が負傷。	146	17	1～9
2006	7	16 ～ 17	事業所改造工事において、J棟内の配電盤の移設工事作業中、既設配電盤に接続されていた各種ケーブルを切断後、天井裏で切断された当該ケーブルを人力で引き上げていたところ、交流200Vの充電電路に感電した。	351	13	1～9
2006	4	18 ～ 19	電気温水器の取り替え工事において、同僚と2人で、約60キロある電気温水器をもって階段の上がり下りを繰り返した。被災者は痛みを訴え、自ら救急車を呼んで、病院に搬送されたが、死亡した。	911	90	1～9
2006	6	13 ～ 14	電柱に取り付けられた1段目の足場ボルト（電柱を昇降するためのステップ）上で、2段目の足場ボルトの取付け作業中、被災者が安全帯のフックをD環でなく、工具等を吊り下げるためのカラビナに取り付けていたことから、カラビナの安全帯への取付部分（クリップ）が破損し、高さ約2.5メートル下に墜落した。	419	1	30～ 49
2006	5	10 ～ 11	高さ6メートル（1.2メートル地面に埋めていた）の木製の電柱の有線放送ケーブル撤去中、木製の電柱に5メートルの長さのはしごを立て掛け、有線放送ケーブルを切断したところ、木製電柱の根元が折れ、立て掛けていたはしごとともに墜落した。	351	1	1～9
2006	5	16 ～ 17	塩酸タンク周辺の配管補修工事において、被災者は足場（2段目）から塩酸の入ったタンク（高さ4.6m、直径2.2m）の手すりを乗り越え、タンクの上に飛び降りたところ、タンクを踏み抜きタンク内に転落した。塩酸は工場廃水を中和するのに利用されており、タンクは深さ2.2mまで塩酸が入っていた。	419	12	10～ 29
2006	4	14 ～ 15	電線の撤去作業において、通常は地上で撤去電線を取りまとめる等の地上作業を主として行っていた被災者が、仮設フェンスを越えた箇所です倒れているのが発見された。当初は意識があったが、被災者が不調を訴え病院へ	419	1	1～9

			搬送された後死亡した。			
2006	4	15 ～ 16	車両基地（建設中）において、電力ケーブル敷設の補助作業に従事していた被災者が、敷設作業箇所を移動中に車線横断用の地下通路階に降りる段の頂部から16段（高さ3.3メートル）下の横断通路面まで転落した。	413	1	1～9
2006	3	16 ～ 17	中央監視室設備改修工事において、事前調査として各階に設置している配電盤の位置を探している途中でPDS室にある扉を開けたところ、その扉の先が吹き抜けの開口部となっていたために約16m下のコンクリート床に墜落した。	418	1	10～ 29
2006	3	14 ～ 15	既存住宅の電気引込み線の張替工事等を行っていたが、張り替えた引込み線に木の枝が当たる為、高所作業車を使い枝払いを行った。その後落とし枝が隣地のコンテナ上にあつたため、片付けようと高所作業車のゴンドラを近づけゴンドラからコンテナ上に乗り移ろうとした際、約3m下のコンクリート地面に墜落した。	146	1	1～9
2006	2	14 ～ 15	はしごを使い下屋の上に上がり、設置されていた温水ルームヒーター用配管を撤去した後のカバーをコーキングした。コーキング終了後、コーキングガンを片手に持ち、はしごを使い地上に降りようとしているときに足を踏み外して墜落した。	371	1	1～9
2006	2	11 ～ 12	機械電気工事現場において、被災者がマンホール（深さ1.25m）内で止水作業を行っていた時、他の労働者がマンホール横に止めてあつた2tダンプトラックを前進させたところ、マンホールの外に出ていた被災者に激突した。	221	6	10～ 29
2006	2	9 ～ 10	被災者らが工場内受電設備の年次点検を停電作業により行おうとしたところ、通常3300ボルト電圧が流れる回路のトランス（変流器）付近が充電した状態になっており、ゴム付軍手をした右手から感電した。	352	13	1～9
2006	2	9 ～ 10	空調のための電気（結線）工事において、システム天井（つり天井）上で2人一組で結線作業を行っていたが、空調の配線が鉄骨のチャンネル内にあるため、上を向いて配線を探していたところ、開口部（150X150cmの7スパン）から、約6.4m墜落して死亡した。	414	1	10～ 29

2005	8	13 ～ 14	ドラグ・ショベルのバケットに溶接されたシャックルにフック付きワイヤロープをかけ、鉄板の穴にフックをかけて、鉄板(重さ800kg)をダンプトラックへ積み込む作業を行っていたところ、鉄板からフックがはずれ、ダンプトラックの荷台上で鉄板を支えていた被災者が下敷きとなった。	142	6	1～9
2005	11	10 ～ 11	電柱の建替え工事現場において、停電作業処理後、高さ9mの電柱の先端に上り、低圧電線を切断して地上に下ろす作業中、電柱が根元から倒壊して、電柱とともに河川に墜落した。	418	1	10～ 29
2005	12	16 ～ 17	軽トラックで、走行中、対向してきた路線バスと衝突した。	221	17	10～ 29
2005	6	12 ～ 13	トランス及び開閉器等の取替え工事の配線作業において、碍子の位置調整中、高圧活線(6,600V)に触れ、感電した。	351	13	1～9
2005	6	14 ～ 15	天井裏で、蛍光灯に使用するための配線工事中、活線電線(200V)を誤って切断し、その電線を再びつなげる作業中に感電した。	351	13	1～9
2005	3	14 ～ 15	既設送電用鉄塔において、鉄塔から発生する風切り音を防ぐため、ネジの隙間にシーラントを詰め、ふたをする作業を高さ40mの箇所で行っていたところ、墜落した。	418	1	10～ 29
2005	7	9 ～ 10	電柱の建替えに伴う電線架け替え工事現場において、電線を新しい電柱に架けかけていたところ、電柱上で感電した。	351	13	50～ 99
2005	2	15 ～ 16	海底電話ケーブルの点検作業のため水深26mの海中で潜水作業を行った後、海面へ浮上中に溺れた。	713	10	1～9
2005	9	10 ～	ケーブル配線工事を行う際に、建屋の屋根上を移動していたところ、スレート屋根を踏み抜いて、7m下のコンクリート床上に転落した。	415	1	1～9

		11				
2005	3	11 ～ 12	軽自動車で停車する際、車止めを乗り越えて海に転落した。	231	10	1～9
2005	3	11 ～ 12	木製電柱の撤去作業において電柱に上がり、抜柱用の台付けを取り付けようとしたとき、地中に埋まっていた電柱が腐食のため折れて倒れ、電柱とともに被災者が墜落した。	418	5	10～ 29
2005	12	10 ～ 11	5階建てマンションの屋上で携帯電話基地局設置の調査中、屋上端部より地上に転落した。	418	1	1～9
2005	2	7 ～ 8	原動機付き自転車（バイク）で走行中、十字型交差点に進入したところ、相手車の右前部と接触した。	231	17	1～9
2005	4	9 ～ 10	電気の引込線撤去工事において、電柱を登っていく途中、5mの高さから墜落した。	419	1	10～ 29
2005	10	18 ～ 19	停車中の車の輪止めを外して車両の助手席に乗り込もうとしたところ、傾斜地に止めていた車両が動き出し、動きだした車のドアが電信柱にぶつかり、車体とドアとの間に挟まれた。	146	17	0
2005	3	16 ～ 17	工場増設に伴う電気設備工事において、鉄骨造3階建ての屋上にてケーブルの配線作業を行っていたところ、高さ15mの屋上端から墜落した。	418	1	1～9
2005	9	16 ～ 17	引込線をボール盤から配電盤に敷設する作業において、配電盤の下から引込線を引き上げる作業をしていたところ、配電盤の充電部（220V）に接触した。	352	13	1～9
2005	9	11 ～	高所作業車に搭乗し6,600Vの活線が通っている電柱の変圧器を撤去する作業中、活線に触れ感電した。	351	13	30～ 49

		12				
2005	3	10 ～ 11	配電盤（重さ180kg）の運搬作業中、台車に載せた配電盤を地面に降ろそうと配電盤を傾けたところ、支えきれずに倒れ、配電盤に挟まれた。	612	7	1～9
2005	11	16 ～ 17	高所作業車のブーム及びバケットを車体に格納して、バケットから降りる際に誤って転落した。	146	1	10～ 29
2005	6	8 ～ 9	ケーブル敷設工事において、マンホール内に50cmの深さに溜まった雨水を排水する作業中、マンホール内で倒れ、溺れた。	713	10	50～ 99
2005	9	0 ～ 1	低圧電灯供給工事で、本線工事終了後、長はしごをかけ、引込線作業中、感電した。	351	13	1～9
2005	3	15 ～ 16	電柱の有線放送用ケーブルに名称プレートを設置する作業を終え被災者が、電柱を足場ボルト伝いに下り、足場ボルトの無い電柱下部に立て掛けてあった昇降用はしごに足を掛けた時に、はしごが変位し、電柱に回し掛けしていた安全帯のロープが、足場ボルトに引っかかり宙つり状態となり、安全帯とともに衣服が脇までずり上がり窒息した。	371	1	10～ 29
2005	8	10 ～ 11	高圧電線（6,600V）の張替工事中、既設電線を撤去する際に、充電部に接触し、地面に落下した。	351	13	1～9
2005	9	14 ～ 15	パン工場兼店舗の新築工事現場において、照明器具を取り付ける作業をしていたところ、墜落した。	371	1	1～9
2005	9	16 ～ 17	防犯灯を取り替える作業中、防犯灯が取り付けられている木柱が傾いてはしごが倒れ、墜落した。	371	1	1～9

2005	12	5 ～ 6	電線支持用のブラケット取付作業中、ブラケットの位置決めをしようとして取付け予定位置に近づいたところ、そばにあった高圧線（6,600V）に触れ、感電した。	351	13	1～9
2005	11	20 ～ 21	岸壁に車を停車後、降車したところ海に転落し、溺れた。	999	1	10～ 29
2005	10	0 ～ 1	軽ワゴン車で移動中、直線道路で対向してきた2トントラックとセンターライン付近で正面衝突した。	231	17	10～ 29
2005	11	8 ～ 9	発電施設内で昇圧変圧器（22kV、1,150 1 1 kVA）の上方10mの箇所にあるケーブル接続部の締付け作業中、工具を昇圧変圧器の端子側と壁との間に落としてしまったため、一旦下りて防護壁を乗り越えたところ感電した。	352	13	1～9
2005	11	13 ～ 14	工場移転に伴う電気設備撤去工事において、旧工場への電気の供給を遮断するためキュービクル式高圧受電設備内の低圧側配線用遮断器に付いている接続用端子を取り外す作業を被災者が単独で行っていたが、突然「ドーン」という音がしたため被災者の様子を見たところ、キュービクル内背部の狭い場所で支柱に挟まった状態で衣服が燃えていた。	352	13	1～9
2004	7	15 ～ 16	橋工事中の橋面にて、電話線用の塩化ビニールパイプを橋面上に敷設するため材料置場から作業場所へパイプを運ぶ作業をしていたところ、落雷に当たった。	719	13	1～9
2004	11	14 ～ 15	発電所から、変電所に通じている6600Vの送電線に、樹木等の接触、近接がないかの調査を行っていたところ、誤って体のバランスを崩した際に、送電線に接触し感電した。	419	13	100 ～ 299
2004	11	14 ～ 15	送電線（6600V）に樹木が接触、近接していないか調査を行うため、電柱に登り、3本ある送電線の中線（地上約9.2m）付近に位置取りし、電線と樹木との垂直距離等を目視にて測定しようとしたところ、誤って電柱のステップを踏み外し、送電線に接触し感電した。	351	13	100 ～ 299

2004	5	10 ～ 11	電柱建替工事現場において、移動式クレーン（2.9 t）を使用して、既設の電柱の支柱（重量900kg、長さ12m）を撤去する作業中、当該移動式クレーンにて支柱をつり上げて移動させていたところ、当該移動式クレーンが転倒したことにより、補助作業に従事していた被災者が転倒した移動式クレーンのジブと支柱との間に挟まれた。	212	6	10～ 29
2004	4	12 ～ 13	工事の事前準備として、国道上のハンドホール内の水抜きを行っていた。約130m離れた次のハンドホールに向かうため、横断歩道を渡っていたところ、被災者後方から右折してきた一般車両に跳ねられた。	231	17	10～ 29
2004	3	16 ～ 17	無線中継所新設工事現場において、通信用鉄柱上で避雷針を取り付ける作業中、上にある作業袋を下ろすために移動したところ、安全帯の掛け替えができていなかったために約10m下の架台上に墜落した。	418	1	10～ 29
2004	7	10 ～ 11	高圧線のグリップカバーを取替える工事の下準備を行うため、柱を昇っている途中で、低圧線の分岐ヒューズの部分に汗で湿っていた作業服が接触したため、感電した。	351	13	1～9
2004	6	15 ～ 16	木造新築店舗への電線の引込み線工事中に感電した。	351	13	1～9
2004	12	9 ～ 10	ビルディング東側の電柱に架けられていたケーブルテレビの線を北側の電柱に架け替える作業に従事していて、作業が終わったので電柱から降りようとしていたところ、誤ってはしごから4.5m下の路上に墜落した。	371	1	1～9
2004	6	9 ～ 10	竹の伐採作業現場で、切り落とされた竹を竹林内で整理作業中、ハチに刺された。	719	90	10～ 29
2004	9	14 ～ 15	電話線等のケーブル布設工事で、地上から高さ約7mのケーブルラック上にて、ケーブルの結束、整線作業を行っていたところ、ケーブルラック上部（ラックから高さ約1m）に走っている床上操作式クレーンのトロリー線（交流200V）に接触し、感電した。	351	13	10～ 29

2004	7	19 ～ 20	製品置場にて高さ約6mの既設の塩ビ管の上から電気配線中継ボックスの蓋を閉めようとしていた被災者が、足を滑らせ墜落した。	391	1	1～9
2004	7	15 ～ 16	被災者は、同僚1名と建物天井部の照明器具取付け作業を行うため、ケーブルを天井に沿って引いていた。同僚がフォークリフトを操作し、被災者はフォークリフトのフォークに木製のパレット7段を積み、上昇させたフォークのパレット上（地上からの高さ4.48m）で作業を行っていたが、コンクリートの床面に墜落した。	222	1	1～9
2004	4	15 ～ 16	高圧電線埋設工事の最終工程である新設ケーブルの耐圧試験中、新設ケーブルの監視を行っていたところ、同ケーブルに接触し感電した。	351	13	10～ 29
2004	10	18 ～ 19	自家用車でを運転中、前のトラックを追い抜くため追い越し車線に入り、追い抜いてから走行車線に戻ったところ、自動車がスピンし左のガードロープに衝突し、リアウインドウより対向車線へ放り出され、下り線を走っていた自動車3台にひかれた。	231	17	10～ 29
2004	6	16 ～ 17	電柱建替に伴う民家への低圧（100V）引込線切り替え作業において、電柱（鋼製）上で作業中感電した。	351	13	10～ 29
2004	10	20 ～ 21	乗用車で高速自動車道上り線を走行中、雨のためスリップして中央分離帯に衝突して180度反転して止まった。被災者らは、車外に出て後続車に事故発生を知らせるために本線上に立っていたところ、後続車の大型トラックにはねられた。	221	17	30～ 49
2004	3	10 ～ 11	交通信号機改良工事において、運搬中に荷崩れした信号柱（直径20cm、長さ9m、質量220kg）を荷台上で直そうとした際、トラックの前部支持台からこの柱が外れ、落下した弾みで柱の元口が跳ね上がり、被災者が元口部分を持っていたため、柱と一緒に荷台から転落し、柱の下敷きになった。	521	4	100 ～ 299
		14				

2004	5	～ 15	会社に戻るため市道（片側1車線、中央分離帯なし）をライトバンにて走行中、反対車線走行中の大型トラックと正面から衝突した。	231	17	50～ 99
2004	4	9 ～ 10	地中配電線用管路敷設のため幅90cm、深さ2.2m、長さ11mの掘削を溝の底で作業中、土止め支保工のない掘削面が崩れ土砂で埋まった。	711	5	1～9
2004	8	～ 16	脚立の上で蛍光灯結線取り付け工事中（200V）、感電した。	351	13	1～9
2004	7	～ 14	工事現場において、電柱の転倒防止用支線（鋼鉄製ワイヤー）を撤去し、撤去跡を舗装する作業中、熱中症となった。	715	11	1～9
2004	6	～ 5	夜間工事勤務終了後、現場から社用車で帰宅途中、下り道路の左カーブを曲がりきれずにガードレールに衝突し、車が横転、炎上した。	231	17	10～ 29
2004	8	～ 14	公道上で高所作業車を運転していた際、下り坂の路肩に停車し降車したところ、車両が動き出したので、車両を追いかけ運転席に乗り込もうとしたときに、車両とともに転落し、横転した車両の下敷きとなった。	146	6	10～ 29
2004	6	～ 19	空調設備の更新工事において、予め開放した空調機用の配線（3相3線200V）を専用工具で切断する作業の際、誤って通電している幹配線（3相3線200V）を切断してしまい感電した。	351	13	100 ～ 299
2004	5	～ 14	メッキ工場で、屋根上に設置された換気扇の取替え工事を行っていたところ、スレート屋根を踏み抜き、約9m墜落した。	415	1	1～9
2004	5	～ 14	電線の張替え工事で、直径15cmの木製の電柱にはしごを立てかけ、電柱の頂点付近に安全帯を取り付けて作業を行っていた際に、他の作業者が工具を渡すためはしごを上ったところ、電柱が根元から折れ、地上に墜落した。	351	1	1～9

2004	8	10 ～ 11	住宅の電気引き込み線を交換する工事において、作業場所に高所作業車を設置するため、車体後方に備え付けられているエンジン始動用スイッチを入れたところ、突然高所作業車が前方に走り出し、高所作業車の前で工事の準備作業を行っていた被災者が巻き込まれた。	146	7	1～9
2004	1	10 ～ 11	軽トラックで走行中、信号のない交差点において、右折しようとしたところ、左側から走行してきたワゴン車と出合頭に衝突した。	231	17	10～ 29
2004	8	15 ～ 16	病院改築工事現場内において、仮設の分電盤を撤去するため、天井裏の送配電線分岐ボックスにおいて送配電線の切り替え作業で、活線状態（電圧：100V、電流：20～40A）にて作業を行っていたところ、送配電線に触れ感電した。	351	13	1～9
2004	8	8 ～ 9	電柱移設工事において、トラックを後退させようとしたところ斜面に止まっていたトラック（エンジン停止中）が徐々に前方に動きだし、トラック前方に回り込み停止させようとしたが停止させることができず、トラックとその前の建柱車に挟まれた。	221	7	10～ 29
2004	8	15 ～ 16	発電設備の使用前自主検査を実施中、負荷遮断試験が終了したところで、蒸気タービンが停止したその直後、蒸気タービンの排気管（直径60cm）に接続されたエキスパンション（伸縮継手）部分が破裂し、その破片がタービン発電機室で点検作業を行っていた被災者に当たった。	312	15	300 ～ 499
2003	11	9 ～ 10	アンテナケーブルを配線するための電柱の撤去作業で、固定していた針金を切断したときに反動で登っていたはしごから約2.5m下に墜落した。	371	1	1～9
2003	11	11 ～ 12	電報端末設備（電報プリンタ）の点検のため2名がワゴン車で国道を走行中、片側2車線の見通しの良い直線道路で対向車線にはみ出し走行してきた大型ダンプと正面衝突し2名とも死亡した。	231	17	50～ 99
2003	11	11 ～ 12	電報端末設備（電報プリンタ）の点検のため2名がワゴン車で国道を走行中、片側2車線の見通しの良い直線道路で対向車線にはみ出し走行してきた大型ダンプと正面衝突し2名とも死亡した。	231	17	50～ 99

2003	11	11 ～ 12	アパート外壁塗装工事に伴う電線防護工事で、アパート2階の通路手すり（高さ1.24m）に上って電線の引き込み取り付け点の状況を確認しようとしていたときに、手すり上から後ろ向きに通路に墜落した。	418	1	10～ 29
2003	10	15 ～ 16	鉄塔のボルト取替工事で取り外したボルトや工具をウインチにより降ろす作業中に、巻き取られていたワイヤがウインチのドラムから外れて降ろしていたボルトや工具が重みで一気に降下してワイヤが引っ張られたため、ウインチのそばに置かれてあったワイヤが左脚に絡まって鉄塔の支柱下部のコンクリートに全身を打ちつけられ、また、ワイヤが絡まった左足はボルト、工具の落下の勢いで切断された。	219	7	10～ 29
2003	10	5 ～ 6	駅構内の高圧配電線路の取替工事を夜間作業で行って乗用車で国道を走行中、右カーブの地点でセンターラインをはみ出し対向の10t大型トレーラーに衝突した。	231	17	10～ 29
2003	10	15 ～ 16	通信ケーブルの申し込みに応じるため、依頼者のビルの通信設備の事前調査として塩ビ製波板屋根に登って撮影をしていたときに、屋根を踏み抜いて2.8m下のコンクリート床に墜落した。	415	1	30～ 49
2003	10	11 ～ 12	照明配管工事において、高所作業車の作業床で2名が作業を行っていたところブームの動作がおかしいのでエンジンを停止し、その後、隣で同じ型の高所作業車で作業を行っていた者に下から操作してくれるよう頼んでエンジンをかけたときに、ブームが伸びて作業床から下をのぞき込んでいた者が作業床の手すりと天井の筋かい（L型鋼）との間にはさまれた。	146	7	0
2003	10	14 ～ 15	光ケーブル敷設工事において、電柱（高さ約7m）に登ってケーブル巻きつけて降りるときに墜落した。	418	1	1～9
2003	9	17 ～ 18	マンション屋上に設置されている携帯電話アンテナを増設するため、マンションの3階屋上部に足場を組立ているときに、クランプ等を収めた麻袋を運搬していた者が足場から3階屋上部に墜落した。	411	1	1～9
		7	乗用車で走行中、渋滞のため徐行運転していたときに、2台後方を走行中			10～

2003	9	8	のトラックが追突してきて前後の車にはさまれた。	221	17	29
2003	9	14 ～ 15	林道わきに電柱を建てる工事で、試掘のため設置したドラグ・ショベルのエンジンを切り忘れていたのでエンジンを切りに行ったときに、ドラグ・ショベルの車体が右旋回する形で斜面を滑って転覆しその下敷きになった。	142	1	1～9
2003	9	0 ～ 1	電気通信ケーブルを搬送して県道を走行中、道路中央ライン寄り右折待ちしていたときに、後続の10tトラックに追突され衝撃で対向車線に飛ばされ、さらに対向の10tトラックに衝突されて助手席の者が死亡した。	221	17	10～ 29
2003	9	10 ～ 11	JR線の高架化に伴う信号設備改良工事において、仮線路上でケーブル保護用トラフ（コンクリート製）の運搬作業を行っていて倒れた。（熱中症）	715	11	50～ 99
2003	8	9 ～ 10	電柱の移設工事において、高圧線のバイパス作業のため、高所作業車上で電柱に設置された開閉器から伸びた片側の端子を、被覆をはがした高圧活線（6600V）に接続し、高所作業車を操作して移動させたときに開閉器に近づいて感電した。	352	13	50～ 99
2003	8	15 ～ 16	工場の盆休み中に行う定期修理において、蛍光灯を廃棄場所に捨て作業場にもどるため構内（屋外）を歩いていたときに、高さ約4mに積み上げられた石膏ボードが不安定な積み方だったため崩壊し下敷きになった。	611	5	1～9
2003	8	19 ～ 20	バイパス関連工事の仕事を終えてトラック（2t平ボデー）で国道を走行中、橋の欄干に衝突して運転席が大破し、助手席に乗っていた者が助手席にはさまれ死亡した。	221	17	1～9
2003	8	16 ～ 17	村道上の電話線引き込み作業の準備のため、高所作業車（バケット車）を坂の方向に向けて停車させ後部アウトリガーの張り出しを行っていたときに、高所作業車がバックしてきたためガードレールと高所作業車との間にはさまれた。	146	7	1～9
		13	電柱から電柱へ共同アース線を取り付ける作業で、電柱に登って高さ10m			30～

2003	7	7	～	の場所で電線の接続作業を行い、電柱から降りる途中でコンクリートの地面に墜落した。	419	1	49
2003	7	9	～	電話交換機の移設に伴うケーブル配線工事において、スレート等で葺かれた屋根上で配線ルートの下見中に屋根を踏み抜いて墜落した。	415	1	1～9
2003	7	11	～	住宅の新築工事において、工事中仮設電気設備のポールに電柱から引込線を接続するため高さ約8.5mの電柱上で作業を行っていたときに、地上に墜落した。	418	1	1～9
2003	7	11	～	1.5tトラックで引込線工事現場に向って走行中、右折のため停車していた2tダンプに追突した。	221	17	50～99
2003	7	6	～	小型貨物自動車（バン）に2名が同乗して高速道路を走行中、雨でスリップし激突し運転者が死亡した。	231	17	1～9
2003	5	11	～	電柱の高さ3.74mの個所に、太陽光連系表示板を取り付ける作業中に墜落した。	419	1	30～49
2003	4	14	～	TVアンテナ移設工事で、配線分配作業が終了したので配線を片付けるため、給水塔5階部分に設置した足場板の上を給水塔外部南側から北側へ移動しているときに、開口部より14.4m下の2階部分に墜落した。	414	1	10～29
2003	4	11	～	道路拡張に伴う電柱の新設・撤去工事において、既設電柱から取り外された電線を巻取り機で回収していたところ、電線が巻取り機の回転シャフトに絡み付いたままであったため、緩んだ電線に右足が絡んで巻取機に巻きこまれて宙に浮くような状態となり、頭部を地面に叩き付けられた。	229	7	10～29
2003	4	23	～	2か月間の時間外労働時間数の平均が約131時間に及ぶ恒常的な長時間労働が著しい疲労の蓄積をもたらし、会社主催の研修先で脳出血のため死亡した。	911	90	1～9

2003	4	10 ～ 11	電柱からトランスを撤去するため、高さ7.6mの位置で作業をしていたときに、電路が開路しているものと思い込んでトランスから電線を抜き6600Vで感電した。	351	13	30～ 49
2003	4	0 ～ 1	工場屋外に空調機を取付ける工事で、2名が工場内と屋外とに分かれて屋内から屋外への配線作業を行うため、まず予備線を配管の中から通そうと屋内にいた者が、屋外にいた者に合図のための声をかけたが返事がないため、不審に思い様子を見に行ったところ、コンクリート床上に墜落していた。	418	1	10～ 29
2003	2	6 ～ 7	自動車道を大型トラックで走行中、中央分離帯のガードレールに激突して車道をふさいだところへ、後続車5台に追突され死亡した。	221	17	50～ 99
2003	1	11 ～ 12	木製電柱をコンクリート製電柱に建替える工事において、木製電柱の高さ7.63mの個所で引込線の取り外し作業をしていたときに、電柱の根元が折れて電柱とともに墜落した。	419	1	1～9
2003	1	17 ～ 18	電柱に防犯灯を取り付ける作業中、トランス付近を移動するため安全帯を外したときに、約7m下の地面に墜落した。	418	1	1～9
2003	1	10 ～ 11	県民文化会館内に設置されているスピーカー等放送設備の点検作業のため、メインホール地下1階のスピーカーの点検に行くときに、間違えてオーケストラピットの入口ドアを開けて入り、地下2階まで3.6m墜落した。	418	1	10～ 29
2003	1	2 ～ 3	新幹線の上り線においてケーブルの敷設作業で、当日予定のケーブルを敷設し終えたので線路上の台車上で載せていたケーブルドラムが回転しないようロープで固定する作業を行っていて、高さ1.2mの台車から転落した。	232	1	10～ 29
2002	12	7 ～ 8	下請社員を電気設備工事現場に送るため会社所有のワゴン車で走行中、赤信号で停車していたトラックに追突した。	231	17	10～ 29

2002	12	16 ～ 17	刑務所の増築工事において、外壁の上で逃走防止用センサーの取付作業を行っていたところ、モッコを吊って旋回していたホイールクレーン（吊上げ荷重26 t）がバランスを崩して転倒してきて、モッコとブームとの間に挟まれた。	212	6	10～ 29
2002	5	5 ～ 6	現場作業が終了してワゴン車で走行中、交差点で停車していたところへ対向車がハンドル操作を誤って衝突してきた。	231	17	10～ 29
2002	12	14 ～ 15	送電鉄塔付近の樹木の芯止め作業で、補助胴綱を取りつけた杉の枝に体重をかけて上昇しようとしたときに、枝が折れて胴綱とともに4.8m墜落し、地上の古木の切り株に後頭部を強打した。	712	1	10～ 29
2002	12	14 ～ 15	変圧器を設置して高圧（6600V）を送電したところ、接続違いで隣設変圧器との異相が生じたため、接続換えの作業に取り掛かったときに開閉器の開放を誤ったため感電した。	352	13	10～ 29
2002	12	9 ～ 10	電線管端部のねじ切り作業中、着用していた安全帯のロープがねじ切り機械の回転体に巻き込まれて上半身を圧迫された。	159	7	1～9
2002	12	18 ～ 19	ワゴン車で走行中、対向のワゴン車が凍結した橋上でスリップしてセンターラインをはみ出してきて衝突した。	231	17	100 ～ 299
2002	11	16 ～ 17	パスタ製造室の蛍光灯増設工事において、蛍光灯機器を取付け後に別の蛍光灯（100V）から配線し圧着ペンチで圧着したときに、感電して約1m下のクーラー設備用配管上に転落した。	351	13	1～9
2002	11	9 ～ 10	J R線の高圧電線の張り替え工事において、張り替えない電線に絶縁防護管を取り付けているときに、誤って左膝が1500Vの活線に触れて感電した。	351	13	30～ 49
2002	10	16	台風により電線にかかった樹木を取り外すため、高所作業車で電線にかかった樹木にロープを掛けて引っ張っていたところ、ロープが切れてその	146	1	1～9

		17	反動でバケットが揺れ約8m下のアスファルト地面に墜落した。			
2002	9	15 ～ 16	新規に設置した油圧プレス機械（能力800 t）の試運転で建屋内の配電線を一時移設するため、建屋の壁に沿って設置されているケーブルラック（高さ3.9m、幅50cm）上で作業中に工場内のコンクリート床に墜落した。	416	1	10～ 29
2002	9	0 ～ 1	電線の張替工事で、次の電柱に登っている途中に高さ7～8mのところの手が滑り道路に墜落した。	351	1	30～ 49
2002	8	14 ～ 15	コンベアの操作盤にケーブルの入線作業を行っていたところ、誤って操作盤内の充電部に身体の一部を接触させ感電した。	224	13	1～9
2002	8	0 ～ 1	新幹線関係の電気工事（配管、配線、アース棒の取付）を柵内で行って工具類の点検をしたのち、巻尺を持って堤防道路を横断しようとしたときに道路を走行してきたタンクローリーに撥ねられた。	221	17	1～9
2002	7	13 ～ 14	高圧ケーブルを撤去するため高所作業車上で検電しようとしたときに、搬器にケーブル（200v）の切断面が接触していたため感電した。	351	13	10～ 29
2002	7	16 ～ 17	電柱の移設工事において、ドラグショベルで1m掘削してアルミ製の矢板で土止めを行い掘削した箇所へケーブルを設置して20cm程土を埋め戻したのち矢板を人力で引き抜いていたところ、急に気分が悪くなりエアコンの効いた車の中で休息していたが手足に痙攣がきて入院後死亡した。（熱中症）	715	11	10～ 29
2002	7	14 ～ 15	テレビの共同アンテナ及び関連施設の点検のため県道を2人で歩行中、進行してきたトラックに轢かれた。	221	17	10～ 29
2002	7	14 ～	テレビの共同アンテナ及び関連施設の点検のため県道を2人で歩行中、進行してきたトラックに轢かれた。	221	17	10～ 29

		15				
2002	7	14 ～ 15	電柱（交流6600V）ヘインターネット通信用光ファイバーケーブルの架線 工事中に、変圧器で交流100Vに落として送電していた住宅内で漏電事故 が発生していたため、漏電電流が電柱を経て変圧器へ戻る回路が作られ、 右手から右膝へ漏電電流が流れて感電した。	351	13	10～ 29
2002	7	15 ～ 16	電話線の引込み線撤去工事において、仮設の屋外線を固定している吊線 （通称：ストランド）に梯子を立て掛けて登り、屋外線（コネクター側） を切離したときに梯子が大きく揺れたため、バランスを崩して約6mの梯 子上から墜落した。	371	1	50～ 99
2002	8	13 ～ 14	送配電線の移設工事で、電線を目的の腕金上に移設し終えたところで電線 に接触し感電した。	351	13	10～ 29
2002	7	15 ～ 16	有線放送用ケーブルの架線工事で、電柱の地上から約4.5mの高さで作業 を行っていたときに、電柱から墜落し、さらに約43mの崖下まで転落し た。	419	1	1～9
2002	6	9 ～ 10	防犯灯の交換作業中に転落した。	221	1	1～9
2002	6	14 ～ 15	地上4階地下2階のダム管理事務所の改修工事において、足場の仮設配電盤 の撤去作業を行っていて作業床から16m下の基礎部分に墜落した。	418	1	1～9
2002	6	14 ～ 15	電柱の頂部の「腕金（うでかね）」及びその他の金具を交換するため、電 柱に昇り腕金に安全帯を取り付け身体を支えたが作業中に腕金が水平に倒 れたため、安全帯が腕金から外れ高さ6mの位置から地面に墜落した。	418	1	1～9
2002	4	18 ～ 19	ローリングタワー（高さ3.65m）を使用して工場内の天井にケーブルラッ クを取り付ける作業を行うため、ローリングタワーの補剛材を利用して昇 降を行っているときに墜落した。	411	1	1～9

2002	4	10 ～ 11	物流センターの底下（高さ約5.6m）に吊下型水銀灯取付けのため、フォークにパレット6段を積みその上に乗って作業を行い、安全帯を外してリフトが下がるのを待っていたところ、オペレーターが操作レバーを間違えフォークリフトを前進させたため、バランスを崩し墜落した。	222	1	1～9
2002	2	11 ～ 12	事務所兼倉庫において、電気工事配線資材を2階から1階に降ろしているときに、階段3段目（約60cm）付近から転倒し脂肪血栓症により死亡した。	413	1	1～9
2002	1	10 ～ 11	団地テレビ共同受信施設専用の円柱状の塔（長さ約8m、直径約13cm、地上高約6.6m）73本の撤去作業中、その内の1本の鉄塔が腐食により根元より折れ、円柱状の鉄塔と共に地面に叩き付けられた。	419	5	0
2001	12	10 ～ 11	特別高圧変電所のケーブルなどの交換工事において、キュービクルの2次側のみは開路していたため、導通作業を行おうとした者が通電中の1次側に接触、感電し、重度の火傷を負った。	352	13	1～9
2001	10	15 ～ 16	バイパスの中央分離帯高架側面のトンネル内の照明器具などの取替作業を3名で梯子を使用して行っていたところ、走行してきた10t貨物トラックに梯子を押さえていた者が跳ね飛ばされ、約20m引きずられた。	221	17	30～ 49
2001	12	10 ～ 11	高さ約11m、直径約5mの立坑(電力用鉄塔の基礎部分)内で地ならし作業が終了し、坑外に出るため土止め用ライナープレートに取付けた鋼製の昇降梯子を昇っているときに墜落した。	417	1	30～ 49
2001	11	10 ～ 11	ビルの改修工事において、電気室の新設電気設備点検・清掃を行うのにヒューズを抜いて開路すべきところを開路せずにコンデンサーの清掃を実施したため6000Vの充電部に接触し感電した。	352	13	1～9
2001	11	16 ～ 17	送電線鉄塔の点検作業を終え、駐車場に戻るため下山途中に巡視路から約120mほど滑落した。	711	1	30～ 49
2001	10	9 ～	建屋の解体工事において、電柱5本撤去のため古い木製電柱(高さ10m直径22cm)に登り電線を外す作業中に、電柱が根本から折れ電柱とともに墜落	419	1	1～9

		10	した。			
2001	10	11 ～ 12	民家にケーブルテレビの配線を引き込むため、民家内の支柱にアルミ製の梯子を掛けて配線を支柱の固定金物に取付ける作業を終え、降りるときに、高さ約4mの梯子の踏面から道路に墜落した。	371	1	10～ 29
2001	9	11 ～ 12	2台の高所作業車を使用して高圧電線撤去工事に伴う電線の分岐点における縁回し線の接続替えを行っていて、高所作業車のバケットを移動させたときに接続替えを終えた縁回し線に接触し感電した。	351	13	10～ 29
2001	9	10 ～ 11	電気通信設備の新設工事において、地上約40mの鉄塔上でトルクレンチを使用してボルトの本締め作業をしていて墜落し、途中、地上27.5m付近にある踊り場で一旦引っ掛かり止まったが墜落に気付いた同僚達が救出のために移動している最中に地上まで墜落した。	418	1	30～ 49
2001	9	7 ～ 8	光ケーブルの切替え作業を終えライトバンで走行中、居眠り運転のためセンターラインをはみ出し、対向のトラックと正面衝突した。	231	17	10～ 29
2001	7	13 ～ 14	三脚脚立に乗って(7段目：高さ199cm)天井裏の配管まわりのパテ埋め作業を終了し、脚立を降りる途中でバランスを崩して脚立とともに転落した。	371	1	1～9
2001	7	9 ～ 10	リフターケーブルの更新作業中、リフターが突然上昇し、リフター搬器とタンク背面部材との間に身体をはさまれた。	229	7	1～9
2001	7	9 ～ 10	高所作業車のゴンドラ上で電柱上にある接地線のコネクター改修工事に付随する低圧(200V)開閉器の交換中に感電した。	351	13	30～ 49
2001	7	11 ～ 12	無線機を交換するため車で走行中、対向車と衝突した。	231	17	10～ 29
		11	CATVケーブルを一般家庭に引込む工事で、ケーブルを電柱に固定する固			

2001	3	～	定金具を取付けるため電柱に登っているときに、約6m下のアスファルト	418	1	1～9
	12		道路へ墜落した。			
2001	7	～	光ケーブルの敷設のため軽トラックの荷台にクッションドラムを載せて	221	1	50～
	24		行っていて、監視のため荷台に乗車していたところ、車線変更のためト			99
			ラックが右に曲がったときに荷台から転落した。			
2001	5	9	ビル屋上のキュービクル内の電気設備の年1回の法定点検を実施したの	911	13	1～9
		～	ち、トランス内の異常警報を防災センターに通報する工事を全停した後に			
		10	行う予定のところ、許可が出る前に作業を開始したため、6600Vの充電部			
			に触れ感電した。			
2001	6	0	変電所と送配電用鉄塔との間のケーブル接続マンホール内で油漏れが発生	351	13	100
		～	したため、電路を一時開路して修繕工事を行い終了したので電路を閉路す			～
		1	るため変電所内のケーブル終端部のリード線をケーブルに取り付けようと			299
			したところ、顎が終端部に触れ、その部分に発生していた誘導電圧(約			
			1400V)で感電した。			
2001	1	16	電話引込み線の取り付け作業で電話本線ケーブルが配架された電柱に長さ	418	1	10～
		～	2. 48mの脚立を立てかけ昇柱したときに道路に墜落した。			29
		17				
2001	4	14	高圧変電盤内において、中央監視設備用信号ケーブル線の結束作業中に、	352	13	1～9
		～	盤内に引込まれていた6. 6KVの断路器の充電部に接触し感電した。			
		15				
2001	5	13	送電線の建設に使用した索道の解体作業で、支柱(鳥居型)を解体するた	217	5	1～9
		～	め、支線を切断していたところ支柱が倒壊し激突された。			
		14				
2001	4	15	鉄塔新設工事に関連する既設道路の拡幅する工事において、振動ローラー	144	1	30～
		～	で砕石敷設作業を行っていてローラーごと谷側に約10m転落した。			49
		16				
		2	道板を使用してバックホーを自走によりトラックに積み込む作業中、道板			

2001	3	3	が外れた反動でバックホーがの荷台上から転落したため、運転者が道路に設置されたガードレールと横転したバックホーのヘッドガードとの間に頸部を挟まれてた。	141	2	50～99
2001	2	6～7	現場で使用する材料を取りに4tダンプトラックで走行中、大型トレーラーに追突した。	221	17	50～99
2001	4	11～12	電柱を交換するための引込線アーム取付け準備工事において、新柱に登って高さ約10mの箇所作業を行おうとしていたところ、近接する位置に高所作業車で上がっていた別の作業員より安全帯に付属する「胴巻用のロープがよじれている」ことを注意されたので、その場で直そうと胴巻用ロープのフックを外したときに、補助のフックを使用していなかったため墜落した。	351	1	0
2001	4	10～11	鉄板を電気ドリルで穴あけ作業のため重さ約20kg弱の屋外受電増幅器を高さ約2.8mの2階へ運搬作業中に、墜落した。	371	1	1～9
2001	3	18～19	事業場内にあるABB(空気遮断器)点検作業において、当日の点検作業終了後にチェック漏れがないかを再確認するため、ABBに近づいたときに感電した。	352	13	1000～9999
2001	3	11～12	高架下国道において、高所作業車(ブーム12m)による高架下用照明の配管の取り替え作業で、配管を撤去したので地上へ降りるため通行規制をしていない中央分離帯側の車線の方へブームを旋回した際に、同車線を走行してきた10t貨物自動車(トラック)がブームに接触したため、バケット内の2名が弾き飛ばされて4m下の道路上に墜落した。	146	6	1～9
2001	3	11～12	高架下国道において、高所作業車(ブーム12m)による高架下用照明の配管の取り替え作業で、配管を撤去したので地上へ降りるため通行規制をしていない中央分離帯側の車線の方へブームを旋回した際に、同車線を走行してきた10t貨物自動車(トラック)がブームに接触したため、バケット内の2名が弾き飛ばされて4m下の道路上に墜落した。	146	6	1～9

2001	3	15 ～ 16	電柱の新設工事において、既設の電柱建替に伴ない仮設した仮柱(長さ8m・質量90kg)を穴掘建柱車で建柱車に積載するために1本吊りでブームを左回転させて移動中に、下端が地面より2.5mの位置で突然玉掛ワイヤーロープから仮柱が抜け、真下で作業を行っていた者の頭部に仮柱が直撃した。	372	4	1～9
2001	1	16 ～ 17	主変圧器放圧板破壊装置などの修繕工事において、最上部の気体検出器を取り替えるための足場組立てているときに、既設配管の傾斜上部から滑り、さらに主変圧器の作業床端部から5.4m下のコンクリート床に墜落した。	418	1	10～ 29
2001	2	8 ～ 9	トラックの荷台に積んだ信号柱(長さ約8.5m、重さ約200kg)7本を降ろす作業中に、信号柱が崩れて、柱とともに1.5m下の地面に転落した。	611	5	1～9
2000	6	10 ～ 11	ブレーカーの点検修理で、故障原因と思われる建物外のひさし(幅75cm、長さ230cm)に設置されているクーラーの室外機を点検するため4階の窓からひさしに乗り移ろうとしたときに11m下に墜落した。	418	1	10～ 29
2000	12	21 ～ 22	工事の設計打ち合わせを終え乗用車で国道を走行中、中央線を越えたため対向の大型トレーラーに衝突した。	231	17	100 ～ 299
2000	1	11 ～ 12	新設配電盤のアースを既設配電盤(440V)のアースに取付ける作業に、誤って身体に既設配電盤のターミナル部が接触して感電した。	351	13	1～9
2000	2	12 ～ 13	移動式クレーンで荷の運搬中、ブームの先が高さ約7.6mのところにある鉄道の高圧電線に触れ、クレーンのオペレーターが感電した。	212	13	10～ 29
2000	10	8 ～ 9	積載型移動式クレーン、吊り上げ荷重2.02tで残土(質量約300kg)を荷台から降ろしていたときに、吊り上げていた荷とともに移動式クレーンが倒れて下敷きになった。	212	5	10～ 29

2000	9	15	電柱の上で高圧線(6600V)に接続した工事用仮設開閉器取り外す作業中、	352	13	50～ 99
	～	16	開閉器のスイッチが「入」になっていたため開閉器の端子部に腹部が接触したときに感電した。			
2000	7	14	1tトラックで国道を走行中、緩やかな右向き上りカーブで対向車線へはみ	221	17	50～ 99
	～	15	出て走行したため、対向のミキサー車と正面衝突した。			
2000	1	16	1階倉庫において、ケーブルラックサポートを取り付けるため、脚立(高さ	371	1	10～ 29
	～	17	3m)の上で天井(高さ約5m)へアンカー穴あけ作業を行っていて脚立から足を踏み外し、墜落した。			
2000	7	14	電柱の柱頭にキャップを被せるため、梯子をかけて上っていく途中に、高	351	13	50～ 99
	～	15	圧活線(1, 500V)に腕が触れ感電し、高架下の道路まで13m墜落した。			
2000	7	15	電柱上での作業が終了しゴム手袋を外して軍手で降りようとしたときに、	351	13	10～ 29
	～	16	引込アームに設けられた100Vの家庭用引込線のヒューズ部分に触れ感電した。			
2000	3	10	プレス機械の取り外しに伴う動力線の取り外し工事において、高さ5. 9m	371	1	1～9
	～	11	のケーブルダクト上に上るため、ケーブルダクトにアルミ製の梯子を掛けて登ろうとしたときに梯子が滑動し、梯子とともに墜落した。			
2000	3	11	分電盤の2次側配線の容量変更で、アース端子を外しテーピングしないま	352	11	1～9
	～	12	ま作業を進めていたためにアクリルカバーの下部の隙間から1次側ブスターに接触して相関短絡を起こしたときに電気アークでアクリルカバーが溶け火傷を負った。			
2000	8	14	発電所内の天井クレーンクラブで定期点検作業中に、巻上げ用モーターか	211	7	1～9
	～	15	ら減速機につながるシャフトに安全帯のベルトから巻き込まれた。			
2000	11	10	高圧線の太線化の工事で高所作業車の補助として電柱に昇り既設電線と新	418	13	50～ 99
	～		設電線の入替が終り低圧線付近で待機するよう作業指揮者及び共同作業者			

		11	に指示され待機しているときに感電した。			
2000	8	16	鉄塔建設に使用したクライミングクレーン(吊り上げ荷重2.06t, マスト高さ約33m)の解体作業中に、クレーンの本体部分が高さ約28mの位置からマストを滑り落ちて約3m下のマスト控えステーに激突して止まったが、その衝撃で本体部分のクライミング装置部分の作業床で作業していた2名のうち1名が作業床の外に投げ出され、命綱で宙吊りになった。	211	1	10～29
2000	8	9	破損した蛍光ランプのソケットを取り替えるため安定器2次側の導線と新しいソケットの導線を圧着ペンチで接続しているときに感電した。	359	13	1～9
2000	7	16	臨時に電灯動力配線をするため、負荷側に梯子をかけて電源側との接続作業中に感電した。	351	13	1～9
2000	5	3	地下通信ケーブルの敷設工事において、ケーブルの接続作業終了後の気密状態確認テストを行うため地上マンホール部で準備中、作業帯に進入してきた乗用車に背後から跳ね飛ばされた。	231	17	1～9
2000	1	16	資材置場において、杭を作るため携帯用丸のこ盤を用いて長さ約1.9mの木を長さ60cmに切断しているときに右大腿部を切った。	131	8	30～49
2000	6	10	コンクリート電柱の建替え工事で、高所作業車(作業床高さ14メートル)に乗り、低圧カットアウトの電圧を確認して電源を投入する作業中に誤って高所作業車から墜落した。	146	1	1～9
2000	8	15	通信設備総合工事において、マンホール内に溜まった水をエンジンポンプで排水している途中でガソリンを買ってくることになったが、姿が見えないので探したところマンホール内に倒れていた。	714	12	1～9
2000	8	14	アンテナ設置作業の準備のため、2階屋上で同僚と2人で写真撮影をしていて、全体を写すためカメラのファインダーを覗きながら後ずさりをしていたときに、屋上のパラペットにつまづき8.5m下の地上に転落した。	418	1	10～29

2000	5	16 ～ 17	資材置場において、仮置きしていたコンクリート柱を建柱車の荷台に載せて移動し、建柱車のクレーンで柱2本を降ろしたときに建柱車が転倒し、クレーンのブームと地面にあったコンクリート柱との間に挟まれた。	212	6	1～9
2000	3	9 ～ 10	工事現場に向かうため町道をトラックで走行中、対向のトラックが車線をはみ出してきて衝突した。	221	17	1～9
2000	11	14 ～ 15	船舶の電装工事で、船内に設置していた溶接機を船外を經由して別の作業場所に移設しようとしたときに、船外に設置していた足場(高さ3.43m)から墜落した。	414	1	1～9
2000	8	22 ～ 23	トンネルの照明用ケーブルの移設で、高所作業車上で作業床を上昇させるためスイッチを入れたときに、トンネル天井と高所作業車の手すりとの間に頭部を挟まれた。	146	7	10～ 29
2000	6	14 ～ 15	架空地線の延線工事において、新設鉄塔(高さ58m)に架けた電線に難着雪リング等を取付けるため宙乗機に乗り込んだときに、宙乗機と共に約52m下の地面に墜落した。	418	1	10～ 29
2000	2	9 ～ 10	電気工事に使用するバーナーを購入するため乗用車で走行中、飼料を運搬して道を横断しようとしたトラクターのバケットに衝突した。	231	17	10～ 29
1999	9	9 ～ 10	基地内の飛行場配電室内において、航空灯火用機器の不良個所を点検修理をしていて感電した。	352	13	1～9
1999	11	18 ～ 19	現場から普通貨物自動車で帰社途中、アイスバーンのため蛇行していた対向車に運転席ドア付近を衝突され、その弾みで路外に押し出されて電柱に激突した。	231	17	30～ 49
1999	11	13 ～ 14	電気室分電盤のフレーム撤去作業において、4台の分電盤フレームの撤去を行ったのち、残りの分電盤の活線部を絶縁するため絶縁シートで覆う作業を行っていたときに、6600ボルトの活線部の銅帯に接触し感電した。	352	13	1～9

1999	8	15 ～ 16	印刷工場の冷却用ポンプ増設に伴う電気設備工事で、ブレーカー等の配線を行っていたときに、活線部分(200V)に左肩が触れ、感電した。	359	13	10～ 29
1999	11	17 ～ 18	保育園の2階屋根上に暖房用ボイラの膨張タンクを取付ける工事において、配管の状況を確認するため屋根上(勾配17.5度)を移動中に、足を踏み外して1階の屋根に転落し、さらに地上へ転落した。	415	1	50～ 99
1999	9	13 ～ 14	配電盤のブレーカースイッチを切り絶縁抵抗の測定中、同僚が謝ってこのスイッチを入れたため220Vで感電した。	359	13	10～ 29
1999	9	13 ～ 14	熱延工場の高圧(6600V)トランスのリアクトルを点検作業中に感電した。	352	13	1～9
1999	12	8 ～ 9	鉄塔(完成時の高さ35メートル)の組立現場において、高さ約15メートルの箇所から墜落した。	418	1	10～ 29
1999	11	9 ～ 10	工場内の洗浄機移設に伴う一次側電源の工事を行うため、中2階から梁に梯子をかけ梁の上にある中継BOXから一次側の配管ルート进行调查していたときに、その時に、進行してきた天井クレーン(3t)に激突され天井クレーンと梁との間に挟まれた。	211	6	1～9
1999	11	13 ～ 14	テレビ共同受信用支持柱にはしごを掛けてテレビ用通信ケーブルの撤去作業を行い、作業が終了したので安全帯のフックを外して地上に降りようとしたときにバランスを崩して約3.5メートル下のアスファルト路上に転落した。	371	1	1～9
1999	6	11 ～ 12	高圧活線電柱碍子の取替工事で、既設の高圧耐碍子を取外し、新しい碍子を取付けてコッターピンと呼ばれるピンを差し込むときに高圧活線電路(6600v)に接触し感電した。	351	13	10～ 29
		14	廃工場に放置されているブレーカー等を再利用する目的で再利用できそう			

1999	11	～ 15	なブレーカー等の取り外しを廃工場に放置されていたホイスト式天上走行クレーンの上で行っていて、4.6メートル下のコンクリート床に墜落した。	211	1	1～9
1999	11	～ 12	変電所の変圧器等の清掃・点検作業中に、6000Vの真空しゃ断器の銅板に接触し、感電した。	352	13	30～ 49
1999	11	～ 18	倉庫敷地内でトラック(最大積載量1750kg)荷台に高圧線用電線が巻かれたドラム(重量約134kg)3本を積込む作業で、3本目のドラムを先に積込んだドラム2本の上にフォークリフトの爪から降ろしていたところ、ドラムの一部がフォークリフトの爪から落ちたため、荷台上(高さ2m7cm)から墜落した。	221	1	100 ～ 299
1999	10	～ 13	地下電話線敷設作業において、アースオーガーによる推進立坑掘削準備作業中にオーガーマシンが絶縁用防護具が装着された6600ボルトの送電線に接触したため、絶縁用防護具が押し上げられ、そのために露出した活線がオーガーマシンに触れて地上でドリルの保持等の作業についていた者が感電した。	351	13	1～9
1999	4	～ 11	送電鉄塔の改築工事において、基礎コンクリートの鋼製型枠の脱型作業中に、高さ約5mの法面が崩壊し、土砂に埋まった。	711	5	10～ 29
1999	9	～ 13	変電所の定期点検清掃のため、電力所と連絡をとって電気回路を逐次開路し開路した電気回路から検電、点検、清掃の作業を行っていたが、一連のこれらの作業から離れた場所で梯子を掛けてアース設置作業中の者が、3300Vに接触して、感電し、高さ2.8mの梯子上から墜落した。	352	13	10～ 29
1999	9	～ 11	3階建商品倉庫新築工事現場で、屋根の上に設置してあるエアコン室外機の引き込み電線とボックスの隙間をパテにて塞ぐ作業を行っていて、通電中(200ボルト)の配線と配電盤の枠の間に顔面が触れ感電した。	352	13	1～9
		10	高さ10mの電柱上に設けた作業台で装柱変更作業をしていて、安全帯の胴綱を一旦はずして別の作業台に移ろうとしたところ墜落しかけ、一瞬安全			30～

1999	9	～ 11	帯の補助ロープで支えられたものの補助ロープが切れて、約10m下の道路側溝に墜落した。	351	1	49
1999	8	～ 15	工場の夏休み中の電気工事において、天井の蛍光灯(200V、40W×2灯)を移設して最後の結線を行うため、端子を圧着ペンチでかしめたときに、感電した。	359	13	10～ 29
1999	6	～ 15	電話線のケーブルカバー撤去作業を高所作業車を用いて行っていて、電柱そばの水路(幅129cm、深さ150cm、水深約10cm)の底部で倒れているのを発見された。	351	1	30～ 49
1999	8	～ 15	宅地造成現場の電柱埋設作業において、建てた電柱に作業員が登って配線作業中、電柱が作業員もろとも倒壊した。	418	5	50～ 99
1999	7	～ 10	工場の冷房用クーリングタワーの電源工事で、工場外壁に配管用の穴を開けるため建物の底にのり穴あけ位置を確認しているときに約4.7メートル下に墜落した。	415	1	10～ 29
1999	8	～ 15	高所作業車の上で電話回線工事をしていたところ、対向車が来て離合ができないため、作業床から降りてアウトリガーを格納したところ、高所作業車が勾配約8度の林道を後退し地山と高所作業車との間に挟まれた。	146	6	10～ 29
1999	7	～ 17	低圧引込線工事において、柱上で引込線ケーブルと電源側ケーブルを保持していて感電した。	351	13	10～ 29
1999	7	～ 16	蒸気発生機の電源工事を床上高さ4.7mに設置されている配線ラック上で行うときに、200V動力線はブレーカーをOFFにしたが、100V線はブレーカーの判別が出来なかったため活線のままにしていたため、左手が誤って活線に触れて感電した。	351	13	1～9
1999	6	～ 14	作業が終了したのでダンプカーに乗り込み発進したところ、そのすぐ前でしゃがみ込んでワイヤーの切断をしていた者に気づかず、ひいた。	221	7	10～ 29

1999	6	15 ～ 16	勾配約10度の坂道に高所作業車が停車させて車両の後部でアウトリガーのジャッキ操作をしていたときに、車両が逸走したため後方に停車していた別の高所作業車の後部との間に挟まれた。	146	6	30～ 49
1999	6	9 ～ 10	高圧電線の増設工事のため送電の停止をしたが、電柱上で安全帯を使用した状態で意識を失っている作業者が発見された。	351	13	30～ 49
1999	5	8 ～ 9	送電線鉄塔の基礎部に生コンクリートを打設する工事において、型枠に立てたアルミ梯子上でコンクリート圧送ポンプを遠隔操作していたところ、型枠に番線で固定したところから梯子が切断したため、約2.5m下のコンクリート床面に墜落した。	371	1	10～ 29
1999	4	15 ～ 16	現場事務所に電話配線を行うため、工具棚上のカラーボックスの上にあっがたときに、カラーボックスの天板を踏み抜いて高さ約1.6メートルのところから墜落した。	419	1	1～9
1999	5	10 ～ 11	電話線引き込み工事で、市道に高所作業車を停車させて道路をまたぐようにブームを伸ばして作業を行っていたところ、ブームの下を通過しようとした4トントラックの荷台上部がブームに接触したため、反動でバケットから転落した。	146	1	10～ 29
1999	5	10 ～ 11	変電所内において、母線の「碍子」等を目視により点検しながら歩行中、誤って活線に接触し感電した。	351	13	30～ 49
1999	4	9 ～ 10	揚炭機のパンタグラフのブラシ清掃等を行っていたところ、揚炭機の下にあるベルトコンベヤが動き出し、揚炭機の石炭投下ホッパーとコンベヤベルトの間に全身を巻き込まれた。	224	7	100 ～ 299
1999	4	9 ～ 10	積雪等により伸びた高圧電線の補修の事前調査を電柱に登り行っていたときに、誤って活線に触れ感電した。	351	13	30～ 49
		11	電気ケーブル中継用の地下マンホール内に入り、底に滞留した泥等を排出			

1999	3	～ 12	する作業に従事していて急性の一酸化炭素中毒になった。	111	12	1～9
1999	3	15 ～ 16	建設工事の設計のための現地調査にライトバンで向う途中、町道でセンターラインをはみ出して対向車と正面衝突した。	231	17	1～9
1999	3	9 ～ 10	一般家庭の火災後の復旧工事に伴う電気工事において、電柱に取り付けられているヒューズを確認するため、昇柱途中に電柱から墜落した。	351	1	1～9
1999	3	9 ～ 10	有線放送設備支障移転工事のため建柱車で穴掘り作業中、アスファルト舗装がはがれないため金棒でアスファルトをはつっていたときに金棒とともに後方に倒れて、後頭部を打った。	364	2	50～ 99
1999	2	10 ～ 11	受電設備に新たな回線を設けるため、新規の電線接続作業に先立ち絶縁用のゴム板を設置しようとしたときに、6600ボルトの充電部に手が触れ感電した。	352	13	10～ 29
1999	2	14 ～ 15	架空地線架け替え工事で架線車を使用して作業用ケーブルの巻き取り回収作業中、架線車のウインチを操作していた者がウインチドラムに全身を巻き込まれた。	219	7	10～ 29
1999	1	14 ～ 15	高速道路の電気設備室内において、配電盤の配線取替え作業を素手で行って充電部に右手小指を接触して感電した。	352	13	1～9

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202210_30.htmlに戻る。